栃木県埋蔵文化財調査報告第 399 集

境の明神遺跡

－快適で安全な道づくり事業費（県単）一般国道 294 号明神工区に伴う発掘調査－

2020. 3

栃 木 県 教 育 委 員 会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

境の明神遺跡

（さかいのみょうじんいせき）

－快適で安全な道づくり事業費（県単）一般国道 294 号明神工区に伴う発掘調査－

2020．3

栃木県教育委員会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

序

境の明神遺跡は、栃木県北東部の那須町寄居地区と福島県白河市白坂明神が接する県境に位置しています。

本遺跡は、旧奥州道中の街道沿いに所在し、遺跡の名称となった境の明神は、栃木県側に「玉津島神社」、福島県側に「住吉明神」が二社並立している神社の通称です。江戸時代には、松尾芭蕉が「おくのほそ道」の中で、境の明神峠を越えて奥州へ旅立っていく様子が記されており、今もその玄関口として多くの人を魅了しています。

この度、栃木県県土整備部による国道294号線拡幅工事に先立ち、路線内に所在する遺跡の取扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を行いました。

本報告書は、境の明神遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとって、郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました栃木県県土整備部、那須町教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

令和２（2020）年３月

栃木県教育委員会

教育長　荒川　政利

例　言

1　本書は、栃木県那須町寄居地内に所在する境の明神遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、令和元年度栃木県県土整備部道路整備課事業のうち、国道294号線拡幅工事に伴う発掘調査に伴う記録調査である。

3　調査は、栃木県より財団法人とちぎ未来づくり財団へ業務委託され、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもと、実施したものである。

4　本遺跡の現地調査及び整理報告作業期間は、以下の通りである。

【発掘調査】令和元（2019）年6月17日～令和元（2019）年9月30日

担当者　　調査課　副主幹　植木茂雄

【整理作業】令和元（2019）年12月1日～令和2（2020）年3月27日

担当者　　整理課　嘱託調査員　長瀧豊和

5　本書の執筆・報告書作成は、整理担当者が行った。

6　境の明神遺跡の調査にあたり、以下の事業を委託した。

重機による表土除去及び安全柵の設置は、株式会社高久組に委託した。

基準点測量・航空写真撮影・遺構図化は、中央航業株式会社に委託した。

陶磁器類の写真図化は、株式会社シン技術コンサルに委託した。

7　発掘調査中における遺構の写真撮影は調査担当者が行った。

写真図版掲載遺物写真の撮影は株式会社シン技術コンサルに委託した。

8　金属製品のＸ線撮影は埋蔵文化財センター普及資料課副主幹車塚哲久が行った。

9　発掘調査・報告書作成にあたっては、次の方から御指導・御協力を賜った。

栃木県県土整備部　那須町教育委員会　福島県県南建設事務所　白河市建設部文化財課　鈴木功

鈴木一寿　（順不同・敬称略）

10　陶磁器に関しては、次の方の御指導・御協力を賜った。

長佐古真也　山下峰司　水元和美　石井たま子　（順不同・敬称略）

11　石材鑑定については、次の方の御指導・御協力を賜った。

荒川竜一　（敬称略）

12　発掘調査の参加者は、次のとおりである。

黒川周平　斎藤幸雄　高久一雄　高久昌彌　（順不同・敬称略））

13　整理・報告書作成作業の参加者は次の通りである。

新井勝美　中谷美智子　根本弥幸　三室裕子　（順不同・敬称略）

14　本発掘調査は、本書をもって正式報告とする。

15　本遺跡の出土遺物・図面写真資料等については、栃木県が保有し、栃木県埋蔵文化財センターに保管、財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが管理している。

凡　例

1　境の明神遺跡の略号はNS―SKである。

2　発掘調査時の遺構は、S―00の略号で示した。

3　遺構図と遺物実測図の縮尺は図版ごとに示した。

4　標高は、海抜標高である。

5　遺跡のグリッド配置図は、世界地形の座標に基づき、その座標は北である。

6　出土遺物の寸法は観察表ごとに示した。

7　表中に遺物の計測値の（　）は、復元値を表す。

8　陶磁器観察表の年代は、推定される上限年代を示した。

9　実測図と写真図版の番号は同じである。

目　次

序
例言
凡例
挿図目次
表目次

第１章　調査の経緯
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の方法と経過 …… 3

第２章　遺跡の環境
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 4

第３章　発見された遺構と遺物
　第１節　遺構の概要 …… 5
　第２節　発見された遺構と遺物 …… 5

第４章　総括 …… 43

挿図目次

第１図　境の明神遺跡位置図 …… 1
第２図　発掘調査箇所 …… 6
第３図　遺構配置図 …… 7
第４図　遺構平面図　（１） …… 8
第５図　住居跡推定範囲図 …… 8
第６図　遺構平面図（２） …… 9
第７図　遺構平面図（３） …… 10
第８図　陶磁器実測図（１） …… 12
第９図　陶磁器実測図（２） …… 13
第10図　陶磁器実測図（３） …… 14
第11図　陶磁器実測図（４） …… 15
第12図　陶磁器実測図（５） …… 16
第13図　陶磁器実測図（６） …… 17
第14図　陶磁器実測図（７） …… 18
第15図　陶磁器実測図（８） …… 19

第 16 図　陶磁器実測図（9）…… 20
第 17 図　鉄製品実測図（1）…… 21
第 18 図　鉄製品実測図（2）…… 22
第 19 図　鉄製品実測図（3）…… 23
第 20 図　鉄製品実測図（4）…… 24
第 21 図　鉄製品実測図（5）……25
第 22 図　鉄製品実測図（6）……26
第 23 図　金属・土製品実測図 ……27
第 24 図　石製品実測図（1）……28
第 25 図　石製品実測図（2）……29
第 26 図　古銭拓影（1）……29
第 27 図　古銭拓影（2）……30
第 28 図　古銭拓影（3）……31
第 29 図　古銭拓影（4）……32

表目次

第 1 表　陶磁器観察表 ……33
第 2 表　金属製品観察表 ……37
第 3 表　銅・土製品観察表 ……41
第 4 表　石製品観察表 ……41
第 5 表　寛永通宝計測表 ……42

図版目次

図版一　境の明神遺跡航空写真（南西から）
境の明神遺跡航空写真（西から）
境の明神遺跡航空写真（真上から上が北東）
「従是北白川領」の石柱（北から）
境の明神県境（南から）
図版二　SK-06 遺物出土状況（北から）
SK-06 遺物出土状況（南東から）
SK-07 遺物出土状況（北東から）
SK-08 礫出土状況（南から）
1 区 P-01、02 完掘状況（北東から）
1 区 P-01 完掘（礫出土）状況（北西から）
1 区 P-02 完掘（礫出土）状況（北西から）
4 区遺構完掘状況（北西から）
図版三　SI-01 航空写真（南西から）
SI-01 完掘写真（南西から）
SI-01 完掘写真（北西から）
4 区古銭出土状況（北から）
境の明神（玉津島明神）（南東から）
境の明神（住吉神社）（南東から）
境の明神の峠（下野側から：南西から）
境の明神の峠（下野側から：南から）
図版四　遺物写真（12-109 ～ 12-116）
遺物写真（13-117 ～ 13-133）
遺物写真（14-134 ～ 14-140）
図版五　遺物写真（14-142 ～ 14-147）
遺物写真（15-148 ～ 15-164）
図版 6　遺物写真（15-165・15-166）
遺物写真（21-164 ～ 21-179）

第１章　調査の経緯

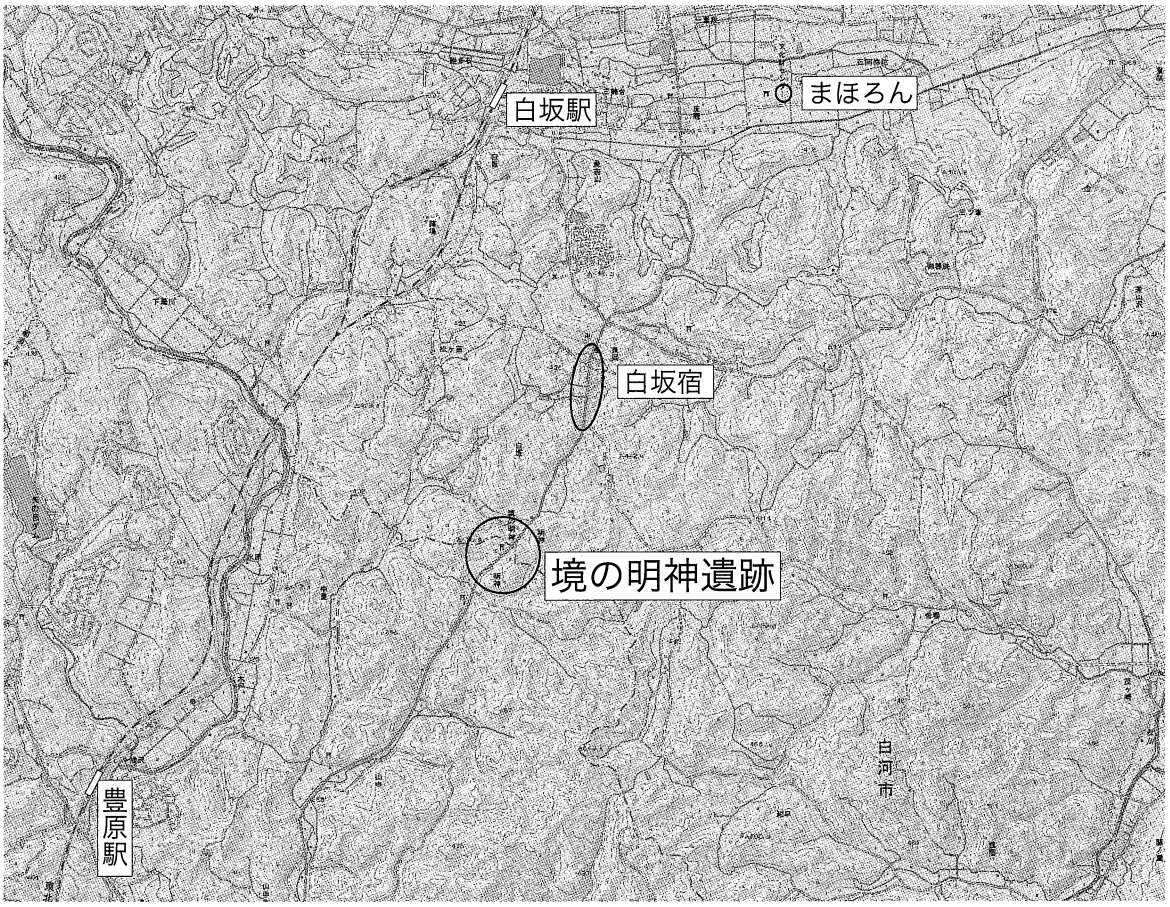
第１節　調査に至る経緯

国道 294 号は、千葉県柏市を起点とし、終点の会津若松市にいたる総延長約 240㎞の一般国道である。栃木県那須町芦野から福島県白河市女石までの区間は、江戸時代の主要道路であった、奥州街道と重複している。この区間は奥州街道が原型のため、幅員が狭く走行に支障があることから、バイパス工事等による道路の改良が行われ、現在は県境付近まで、快適に走行できるように改善されている。しかし、県境に近づくと、道路の幅員は狭くなり、穏やかな峠となる。この峠の栃木県側に境の明神遺跡が所在している。

峠を挟んで栃木県側も福島県側も道路の整備が進んでいるが、現況では栃木県側が福島県側より狭くなっている。輸送用の大型トラックが多く通行することから、安全上の問題が指摘されており、緊急輸送道路にも指定され、災害時の交通の要となっていることから、幅員の拡張が必要とされた。

国道 294 号那須町明神工区の拡幅工事に先立ち、平成 27 年 5 月 25 日、の所在調査を実施が実施された。工事範囲には境の明神が所在し、寛延 4 年の絵図によれば計画地内に境の明神村が描かれており、近世の遺構が所在する可能性が高いと判断された。また、当該地は国指定名勝「おくのほそ道の風景地」の候補地となっていることから、名勝指定に係る協議を実施した上で、埋蔵文化財の取扱いを協議することとなった。

「おくのほそ道の風景地」とは、平成 24 年度に文化庁が新たな名勝指定として、一連のつながりで評価できる風致景観を検討したもので、その候補として「おくのほそ道」の関係地域の調査を開始している。この結果、栃木県内では、条件が整った日光市のガンマンガ淵、大田原市の八幡宮（那須神社境内）、那須町の殺生石な



第１図　遺跡の位置

どの地区について、平成 26 年 3 月 18 日付けで指定された。その後も条件が整った地区について追加指定が進められることとなった。工事範囲の埋蔵文化財の取扱いについて、平成 27 年～平成 29 年度に毎年実施する、埋蔵文化財個別打合せ会において、当該事業について協議を行った。名勝に係る協議経過は以下のとおりである。

平成 27 年 10 月 1 日　文化庁・栃木県教育委員会・福島県教育委員会・那須町教育委員会・白河市教育委員会による現地協議を行い、指定範囲等を検討した。

平成 27 年 10 月 26 日　栃木県教育委員会と栃木県県土整備部による工事計画協議により、景観への影響が最小限となるよう検討を進めることで一致した。

平成 27 年 11 月 27 日　文化庁・栃木県教育委員会で協議を行い、文化庁から拡幅範囲の縮小について検討の指示があった。

平成 28 年 2 月 25 日　栃木県教育委員会・栃木県県土整備部、福島県教育委員会・福島県県土整備部、白河市教育委員会、那須町教育委員会による工事計画の協議を行った。

平成 28 年 3 月 14 日　文化庁・栃木県教育委員会・栃木県県土整備部による協議が行われ、文化庁は道路の拡幅については了解をしたが、拡幅範囲の縮小案についての比較検討の指示があった。

平成 28 年 8 月 25 日　栃木県教育委員会・福島県教育委員会・白河市教育委員会・那須町教育委員会による協議が行われた。

平成 28 年 10 月 19 日　文化庁・栃木県教育委員会・福島県教育委員会・白河市教育委員会・那須町教育委員会による現地協議が行われ、工事計画を現地で確認し合意した。

これらの協議を経て、平成 30 年 8 月 29 日に平成 30 年度埋蔵文化財個別打合せ会が行われ、栃木県県土整備部大田原土木事務所と栃木県教育委員会の協議により、平成 31 年度の発掘調査実施について調整がされた。

これにより、令和元年度に入り、令和元（2019）年 5 月 1 日付け文財号外で文化財課長から公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長宛「令和元年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（境の明神遺跡）の費用見積について（依頼）」において見積書の提出依頼がなされ、同日付とち埋文号外「令和元年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（境の明神遺跡）の費用見積について（回答）」により、見積書を提出した。令和元（2019）年 5 月 1 日付け文財号外で「令和元年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（境の明神遺跡）の契約の締結について（依頼）」があり、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」に基づき、栃木県と公益財団法人とちぎ未来づくり財団の間で委託契約が締結された。契約期間は令和元年 5 月 1 日から令和 2 年 3 月 30 日で、発掘調査は令和元年 6 月 1 日から 9 月 31 日、整理・報告書作成作業は令和元年 12 月 1 日から令和 2 年 3 月 30 日で行われる事となった。

発掘調査、整理作業の進捗に合わせ、作業の内容に変更が生じたため、令和 2（2020）年 2 月 25 日付け文財号外で文化財課長から公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長宛「令和元 (2019) 年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（境の明神跡）の費用見積について（依頼）」において、契約変更のための見積書の提出依頼がなされ、同日付とち埋文号外「令和元 (2019) 年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（境の明神跡）の費用見積について（回答）」により、見積書を提出した。令和 2（2020）年 2 月 25 日付け文財号外で「令和元年度県土整備部事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（境の明神遺跡）の委託契約の変更について（依頼）」があり、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書の変更契約書」に基づき、栃木県と公益財団法人とちぎ未来づくり財団の間で変更契約が締結された。

第２節　調査の方法

国道 294 号那須町明神工区に伴う発掘調査のため、路線が南北に長く、道路の拡幅工事によるため、調査区も南北に細長くなっている。民家や畑地があることから、出入りなどの生活に支障のないように、北側県境より、１区から５区に分割し調査区を設定し、調査を実施した。

表土除去は重機を使用して、調査区北側から実施した。１区は灰白色の岩盤面まで削平し遺構を検出した。２区は斜面地で、灰白色の岩盤面が崖状になっており、遺構の検出はなかった。３区は、表土面から約 0.3 ～ 0.4m で土間状の硬化面が確認出来た事から、その面から若干高い位置まで重機により掘削し、その後作業員による遺構の確認を行った。土間状の硬化面は住居跡で、柱穴などを確認することができた。調査後には遺構面より下を掘削し、約 1.4m で、灰白色の岩盤面を確認した。堆積土は黒色土で、遺物や遺構等は確認出来なかった。４区は傾斜地で、遺構は検出できなかった。５区は、黒色土が深く堆積していたが、調査区の土層を確認しながら、柱穴を確認することができた。６区は重機により、地表面から 0.8 ～ 0.9m までの堆積土を削平したが、遺構は検出できなかった。

５区の柱穴の確認できた箇所から南側では、遺構の検出はなかった。

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

境の明神遺跡は、栃木県北東部の那須町寄居に所在し、福島県との県境に位置している。

栃木県は、関東地方の北部中央に位置した内陸県である。東西に 75 ｋｍ、南北に 98 ｋｍ、面積は約 6,400 ｋ㎡である。西に群馬県、東に茨城県、南に埼玉県・茨城県、北に福島県が隣接している。地形的には、西部山地・中央部平地・東部山地に大きく分けられる。

現在の那須町は、栃木県の最北東端に位置し、総面積 372.34 ｋ㎡を有し、栃木県の約６％の面積を占めている。町域の北と東側は福島県と接しており、関東地方と東北地方の境界になっている。西に那須塩原市（旧黒磯市）、南に大田原市（旧黒羽町）が隣接している。町の中央部には、南北に JR 東北本線・東北新幹線・国道４号線・東北縦貫道などの東京と東北地方を結ぶ交通の大動脈が走っている。

那須町北西部には、茶臼岳（標高 1,917 ｍ）を起点に那須連山を形成し、中央部は高久丘陵地帯が北西から南東方向へなだらかに傾斜して広がる。東部は、八溝山（標高 1,022 ｍ）を中心に八溝山地が南北に連なり、福島・栃木・茨城の県境となっている。那須連山や八溝山系のため起伏に富んだ地形が発達し、その裾野に殺生石や那須御用邸が所在する那須扇状地も広がるが、平坦面の少ない環境である。

河川としては、八溝山地を水源とする三蔵革や奈良川、那須山麓から高久丘陵を南に流れる黒川や余笹川が伊王野の集落の南で合流する。また、那須岳を水源とする那珂川は、那須野が原扇状地に北東を流れ、那須町の南端に流入している。その後、那珂川は茨城県境の八溝山地を南に流れ、那須野が原の南端、塩谷郡境を流れてきた箒川と佐良土・小川付近で合流する。さらに南へ下り烏山の南で塩谷郡西部山麓から流れ下る荒川と内川が合流し、茂木町付近で八溝山地の南端から茨城県に入り、那珂湊から太平洋へ流れていく。

那須町はそれぞれの地域に、観光・歴史・産業など様々な特色がある。芦野地区や伊王野地区は町域の東部に位置し、旧奥州道中（国道 294 号線）の宿場町や城下町として栄えていた。ここでは米作中心の農業・八溝材の林業のほかに、芦野地区では芦野石の生産加工も行われている。また西行や松尾芭蕉が詠んだ遊行柳や御殿山など、観光振興や地域の活性化も担っている。那須地域（黒田原地区・高久地区）は、町の中心

地として、行政・産業・流通の中心的役割を有している。高久地区には、工業団地が立地しているため、人口増加がみられ、宅地開発や公園整備などが進められている。高原地域は那須連山の裾野に広がり、東北自動車道や東北新幹線が通じているため、東京から日帰り可能なリゾート地域になっている。

今回調査対象となった国道 294 号線は、1970 年に制定されたもので、千葉県柏市から福島県会津若松市までの総延長約 240 ｋｍの国道である。主な経過地として、我孫子市、取手市、筑西市を通り、本県には真岡市、益子町、茂木町、那珂川町、大田原市を通り、那須町境の明神遺跡の目の前の県境を越えて、福島県白河市を行くルートになっている。那須町は千葉県柏市から約 150 ｋｍ、宇都宮市から約 70 ｋｍ北にあたり、さらに北へ約 40 ｋｍ行くと福島県郡山市に至る場所に位置している。

参考文献

阿久津純 1976 栃木県史編さん委員会編『栃木県史』資料編　考古 1
那須町誌編さん委員会編 1976『那須町誌』前編
阿部昭編 2002『日光道中と那須野ヶ原』街道の日本史 15
那須町誌編さん委員会　1976 『那須町誌　前編』

第２節　歴史的環境

那須地方の遺跡の発見は、渡辺龍瑞氏の踏査による成果が大きい。平成９年３月刊行の『栃木県埋蔵文化財地図』（栃木県教育委員会 1997）によると、那須町では 281 ヶ所の遺跡が確認され、そのうちの約 81％に及ぶ 229 ヶ所が縄文時代を主体とする遺跡である。特に、渡辺氏の地元である伊王野周辺では多くの遺跡が確認されている。

境の明神遺跡については、県境付近を福島県が昭和 46 年（1971）と昭和 51 年（1976）に国道 294 号線拡張工事が行われ、また平成 14 年（2002）には、白河市教育委員会が国道 294 号線改修工事に伴い確認調査を行い報告書が刊行されている。国道の両側の平場を中心に調査し、遺構としては、土坑、溝跡、焼土遺構、建物礎石等が検出され、遺物は陶磁器、鉄製品、銭貨、鉄滓等が出土している。

平成５年（1993）の段階で、『白河市史資料編第４巻』の作成のため、遺跡周辺の表面調査が実施された。その結果、白河市から那須町の広範囲に、丘陵裾部に人工的な平場の存在が確認されたため、その重要性から平場の確認された範囲が「境の明神遺跡」として登録され、周知されるようになった。

今回の調査の原因になった本遺跡の前を国道 294 号線が通っており、那須町芦野～寄居、境の明神を超えて福島県白河市へ至る道筋は、近世の奥州街道である。俳人松尾芭蕉が『おくのほそ道』の中で、境の明神を通り白河の関へ向かったことが、随行していた弟子の河合曾良の日記に記されている。また本遺跡東側の山を隔てた県道 76 号伊王野白河線は、近世以前の街道筋とされ、国指定史跡白河の関跡がある。源義経が東北地方へ逃れる際、通ったと言われ、古代東山道がこの付近を通っていた可能性がある。

奥州道中の前身は、鎌倉時代に成立した中路および奥大道（鎌倉街道）である。古代の陸奥は、「道の奥の国」と呼ばれ、現在の青森・岩手・宮城・福島を包括する広大な面積であった。近世の奥州道中の成立は、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康が五街道（東海道・中山道・甲州道中・奥州道中・日光道中）の整備を行い、奥州道中の整備は慶長７年（1602）から開始され、27 の宿場が設置された。その道筋は、江戸日本橋を起点に陸奥国白河までとされた。下野国宇都宮以南の区間は、日光道中と共用されており、宇都宮宿伝馬町の追分で 18 番目の白沢宿方向へ分岐する。そこから 27 番目の白河宿までの約 21 里（84 ｋｍ）間が奥州道中

とされた。東山道や関街道と呼ばれた伊王野谷を通る道は副次的なものになり、かわって芦野が城下町として、また新街道の宿駅として江戸時代の経済の発展に伴い交通の要所として盛況を示した。中世以来の芦野氏が、この地域を領有したほかに、黒羽大関氏が寺子や豊原、湯元といった現在の那須町北部を領有した。南部の伊王野地域は伊王野氏の断絶後、天領となった。

明治維新後、徳川直轄領だった伊王野は真岡県に属し、芦野領は日光県の所属になった。のちに両県は合併して日光県になり、廃藩置県で黒羽藩は黒羽県となった。その後、日光県は他の５県（旧５藩）とともに栃木県になり、黒羽県は他の４県（旧４藩）と宇都宮県になった。1873（明治６）年に両県が合併し栃木県となり、おおよそ今日の県域となった。

現在の那須町は昭和 29（1954）11 月に那須村、芦野町、伊王野村が合併して誕生した。

参考文献

栃木県教育委員会　2011 『栃木県歴史の道調査報告書２』 日光例幣使街道　奥州道中

栃木県教育委員会　1997 『栃木県埋蔵文化財地図』

那須町誌編さん委員会　1976 『那須町誌　前編』

第３章　発見された遺構と遺物

第１節　遺構の概要

１区は福島県白河市との県境から約 20m までが調査範囲で、調査区でもっとも標高の高い位置にある。県境には白河藩との境に建つ「従是北白川領」の石柱が立ち、往時の奥州街道をしのばせている。発見された遺構は、土坑が３基と柱跡２基である。遺構確認面は灰白色の岩盤状の面である。

２区は斜面もため遺構の検出は無かった。１区の遺構確認面は灰白色の岩盤であったが、２区の斜面に落ちる所からほぼ垂直に削られていた。

３区からは、住居跡が１軒発見された。

４区は、３区から一段下がった平坦地で、柱跡１基と柱の基礎石と考えられる平坦な礫が１箇所発見された。この柱跡から南側からは遺構を検出する事は出来なかった。

５区からは、表土を除去した箇所からの遺構の検出は無かった。また、調査区の一番南側にあたる家屋の箇所は、出入りをする箇所を除いて調査区とした。北側は深さ約 0.5m 前後まで掘削したが、遺構は検出できなかった。また、南側調査区内では地表面から約 0.2m の位置に配水管が敷設してあり、調査をすることは出来なかった。また、道の反対側の調査箇所では、道際に建物が建てられ深くまで掘りさげられており、遺構は確認できなかった。

第２節　発見された遺構と遺物

１区

SK-06（第４・16・20・21 図　第１表　図版二）

調査区の一番北側に位置している。長径 1.0m、短径は調査区の外になるため不明であるが、北側の測定できる箇所で 0.55m、深さ 0.15m を測る。覆土は１層で、自然堆積と考えられる。遺物は、椀が１点と鉄製品出土している。椀は、底面から約 0.05m の位置に口縁を下にした状態で出土している。完形で内面、外面と

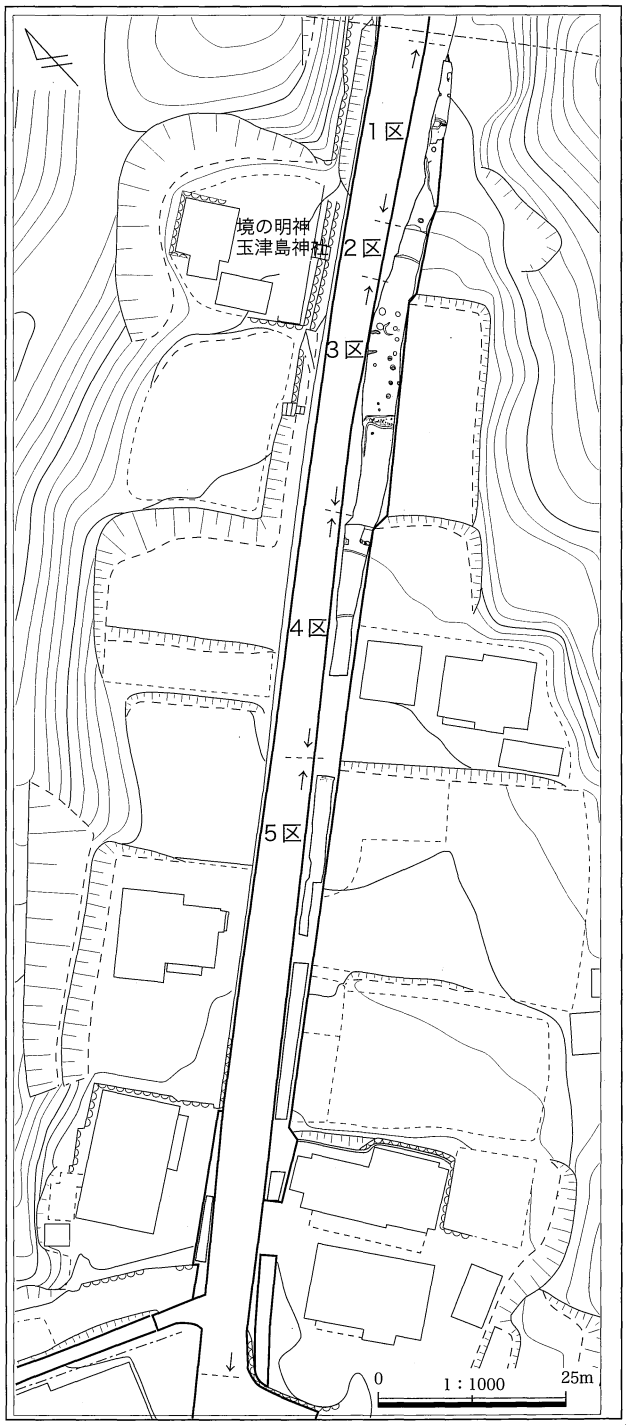
もに漆が付着している。漆は、外面は下半に内面は全面に見られる。

鉄製品は４点が図示できた。釘が２点、取っての輪と考えられる鉄製品１点、不明鉄製品が１点である。

SK-07（第４・７・８・９・10・11・13・15・16・17・18・19・20・22・24図　図版二）

不整形を呈しており、残存する長径は3.5m、短径2.3m、深さ0.12mを測る。覆土は１層で、炭化物を多量に含んでいる。この場所で人為的に焼かれた可能性が高い。

遺物は、陶磁器、鉄製品、土製品、石製品が出土している。図示出来たものは、陶磁器は16点、鉄製品28点、土製品２点、砥石３点である。また、寛永通宝も出土している



第２図　発掘調査箇所

陶磁器は、壺蓋、丸椀、皿、小丸椀、御酒徳利、徳利、土瓶、半胴甕、擂鉢、鉢などで、産地は肥前系と考えられるものが多いが、在地系と考えられるものも出土している。内耳土器も出土しており、在地系と考えられる。深さが浅い形状である。鉄製品は、釘が９点、小刀１点、U字形製品１点、刀子１点、留金具１点、板状品２点、利器１点、長方形板状品１点、不明板状製品８点、不明製品６点である。土製品は大黒天と土鈴のねずみが各１点である。

SK-08（第４図　図版二）

円形の土坑で直径0.7m前後、深さ0.12mを測る。覆土は１層で自然堆積である。中央から礫が出土しているが、遺物の出土は無かった。

P-01（第４図）

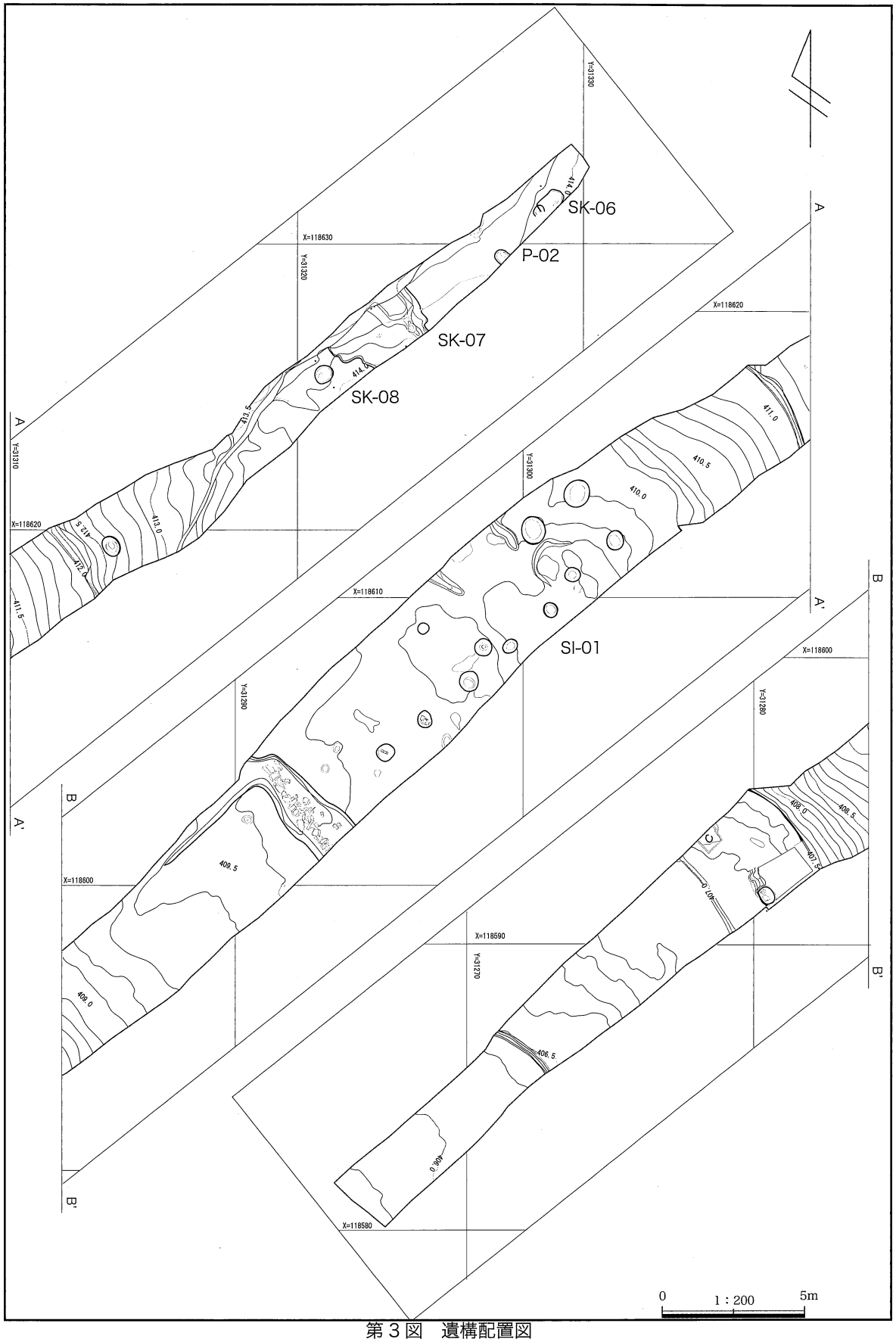
柱跡と考えられ、円形で、直径0.42～0.38m、深さ0.8mを測る。SK-06と重複しており。P-01が古い。底面に厚さ10cmの扁平な礫が３個置かれている。

P-02（第４図　図版二）

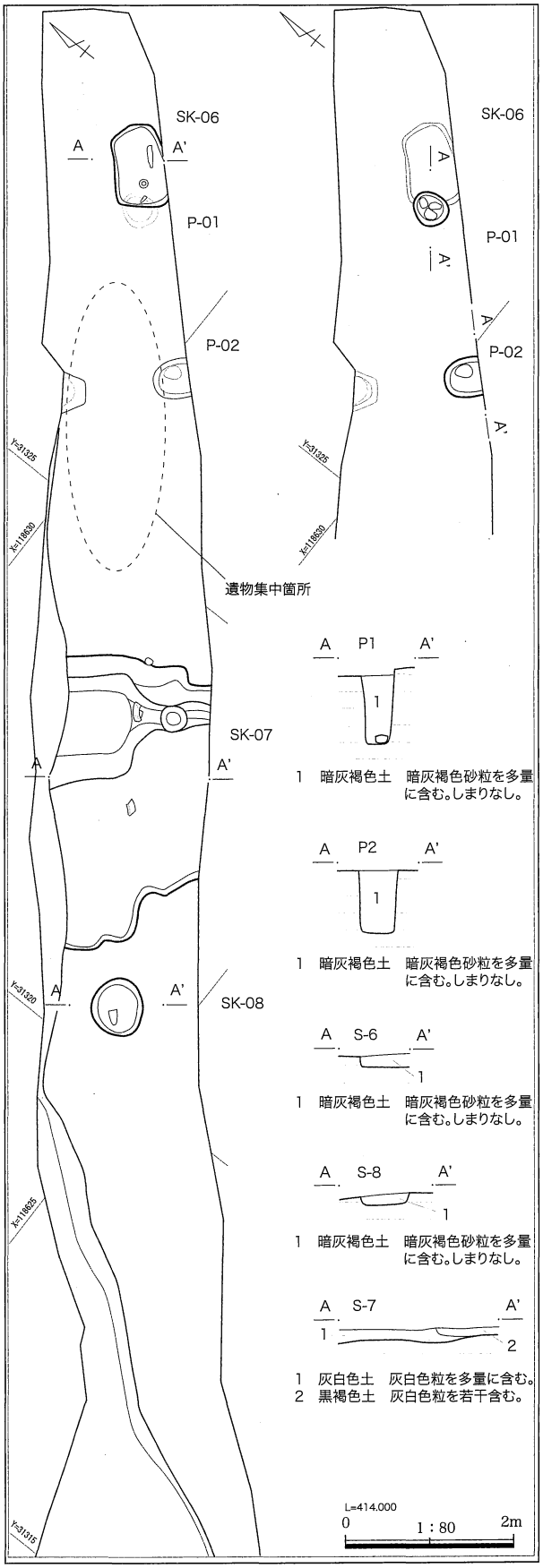
柱跡と考えられ、円形と考えられるが、南東側が調査区外に出ている。直径0.46m、深さ0.7mを測る。底面に扁平な礫が置かれている。

１区出土遺物（第７・８・９・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23図、第１・２・３・４、第１表）

表土除去時に出土した遺物のうち、図示できたものは、陶磁器45点、鉄製品13点、銅製品２点、土製品１点、砥石１点である。陶磁器は、椀、皿、筒形椀、湯呑椀、徳利、蓋、擂鉢、灯明皿、かわらけなど多種にわたっており、在地系が多く見られる。


SK-06
P-02
SK-07
SK-08
SI-01
A
A'
B
B'
X=118630
X=118620
X=118610
X=118600
X=118590
X=118580
Y=31330
Y=31320
Y=31310
Y=31300
Y=31290
Y=31280
Y=31270
414.0
413.5
413.0
412.5
412.0
411.5
411.0
410.5
410.0
409.5
409.0
408.5
408.0
407.5
407.0
406.5
406.0
0
1：200
5m

第３図　遺構配置図



第４図　遺構平面図（1）

金属製品は、銅製品の大黒天１点、釘１３点、釘と考えられるもの１点、鎌１点、火打金１点、板状製品１点、不明板状品１点、不明製品２点、不明品１点、タガネと考えられるもの１点、不明金具１点、煙管の雁首の火皿１点、煙管雁首の基部１点、煙管の吸い口１点である。

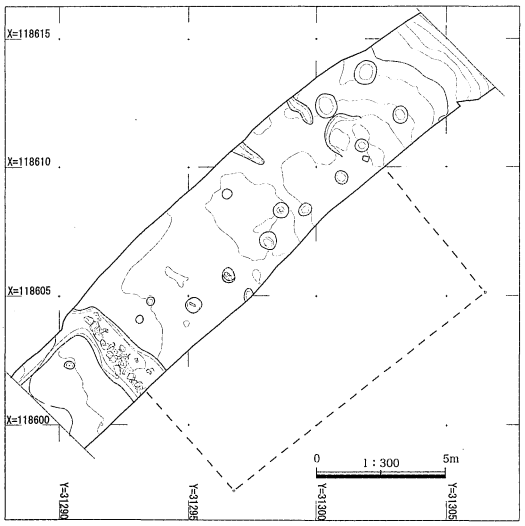
２区（第７・８・９・10・11・13・16・19・21・22・23図）

遺物は重機による表土除去時に多数出土している。図示出来たものは、陶磁器14点、金属製品は、銅製かんざし１点、釘１点、不明板状品２点、獅子形の土製品１点、石臼１点である。陶磁器は皿、椀、丸椀、小丸椀、筒形椀、端反椀、仏飯器、擂鉢、瓦質火鉢などである。

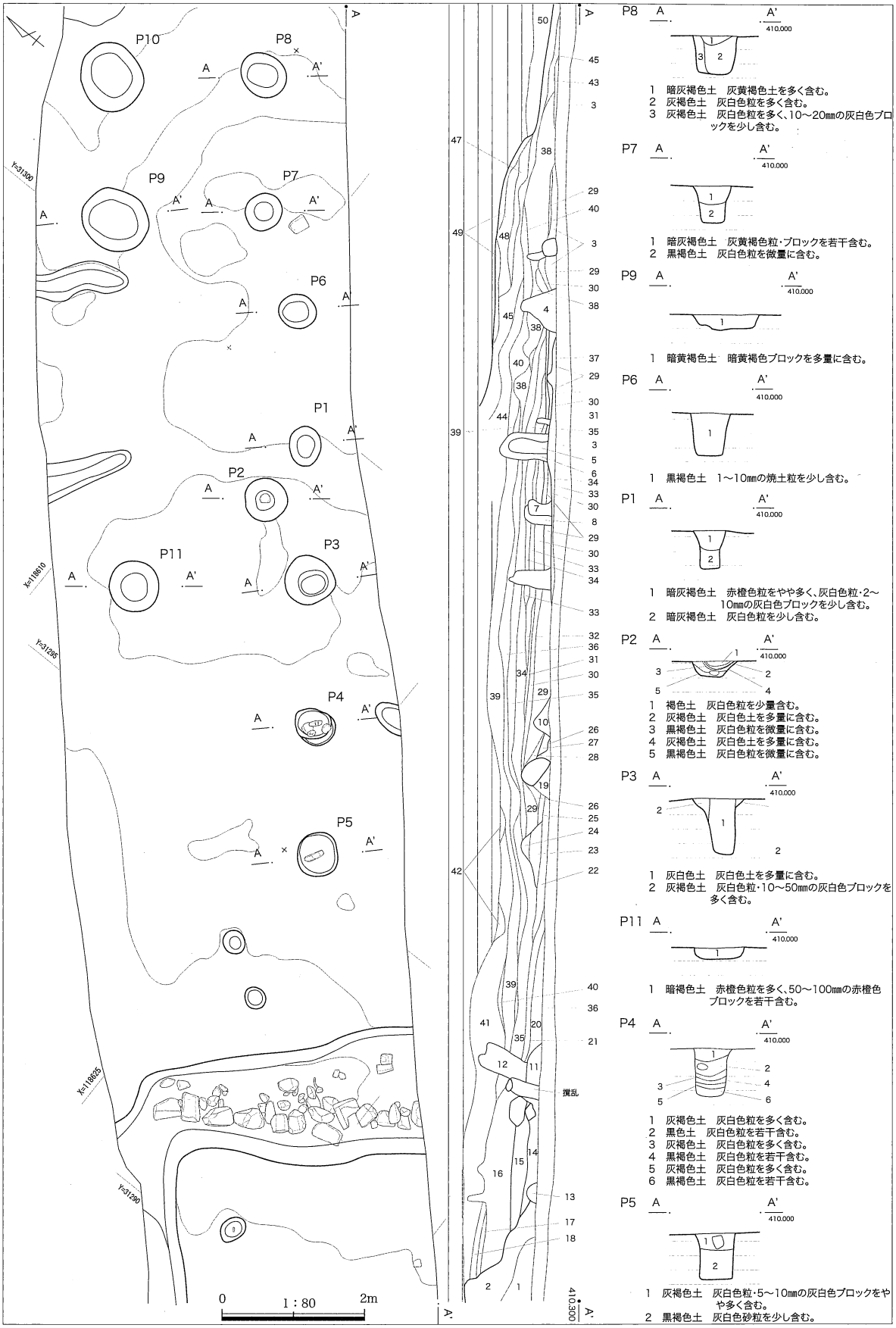
３区

SI-01（第５・６図、第１表　図版三）

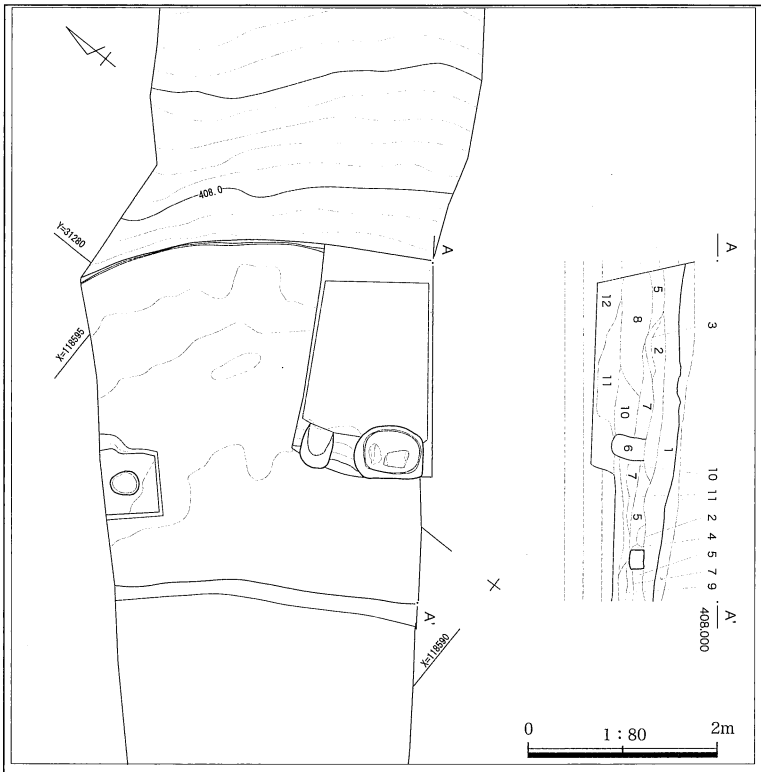
３区からは、住居跡SI-01が発見された。住居跡は、街道に対して平行に建てられていた。街道に面た箇所は、現国道により削平されている。礫で囲まれて作られていたと考えられ、南側は礫が並んで検出できたが、北側は耕作により礫の大部分が無くなっており、セクション面の観察により、礫の並んでいたと思われる場所は確認出来た。この礫の間は約7.0m前後で、固く締まった土間状の床と考えられる硬化面がみられた。床面は灰黄褐色土を多量に含む土層で、その上面からは、寛



第５図　住居跡範囲推定図


P10
P8
P9
P7
P6
P1
P2
P11
P3
P4
P5
Y=31300
Y=31295
X=118610
X=118625
Y=31290
0
1：80
2m
410.300
撹乱
P8
1　暗灰褐色土　灰黄褐色土を多く含む。
2　灰褐色土　灰白色粒を多く含む。
3　灰褐色土　灰白色粒を多く、10～20㎜の灰白色ブロックを少し含む。
P7
1　暗灰褐色土　灰黄褐色粒・ブロックを若干含む。
2　黒褐色土　灰白色粒を微量に含む。
P9
1　暗黄褐色土　暗黄褐色ブロックを多量に含む。
P6
1　黒褐色土　1～10㎜の焼土粒を少し含む。
P1
1　暗灰褐色土　赤橙色粒をやや多く、灰白色粒・2～10㎜の灰白色ブロックを少し含む。
2　暗灰褐色土　灰白色粒を少し含む。
P2
1　褐色土　灰白色粒を少量含む。
2　灰褐色土　灰白色土を多量に含む。
3　黒褐色土　灰白色粒を微量に含む。
4　灰褐色土　灰白色土を多量に含む。
5　黒褐色土　灰白色粒を微量に含む。
P3
1　灰白色土　灰白色土を多量に含む。
2　灰褐色土　灰白色粒・10～50㎜の灰白色ブロックを多く含む。
P11
1　暗褐色土　赤橙色粒を多く、50～100㎜の赤橙色ブロックを若干含む。
P4
1　灰褐色土　灰白色粒を多く含む。
2　黒色土　灰白色粒を若干含む。
3　灰褐色土　灰白色粒を多く含む。
4　黒褐色土　灰白色粒を若干含む。
5　灰褐色土　灰白色粒を多く含む。
6　黒褐色土　灰白色粒を若干含む。
P5
1　灰褐色土　灰白色粒・5～10㎜の灰白色ブロックをやや多く含む。
2　黒褐色土　灰白色砂粒を少し含む。

第６図　遺構平面図（２）



第7図　遺構平面図(3)

３区基本土層説明

1	オリーブ褐色土	1～2mmの灰白色粒を少量、5～10mmの灰黄褐色ブロックを微量に含む。粘性やや有り、しまり有り。
2	オリーブ褐色土	1～2mmの灰黄褐色粒を少量含む。む。粘性やや有り、しまり有り。
3	暗褐色土	1～2mmの灰黄褐色粒を多く含む。粘性、しまり有り。
4	赤褐色土	焼土を多く含む。粘性、しまりやや有り。
5	オリーブ褐色土	2～5mmの灰白色粒、焼土粒を少量含む。粘性、しまり有り。
6	オリーブ褐色土	1～2mmの灰黄褐色粒を少量含む。粘性、しまり有り。
7	褐色土	焼土、灰を多量に含む。粘性、しまりやや有り。
8	オリーブ褐色土	2～3mmの灰白色粒、灰黄褐色粒を少量含む。粘性、しまり有り。
9	褐色土	2～5mmの灰黄褐色粒をやや多く、5～10mmの焼土ブロックを少量含む。粘性、しまり有り。
10	暗褐色土	1～2mmの灰黄褐色粒を少量含む。粘性、しまり有り。鉄率を含んでいる。
11	暗褐色土	1～2mmの灰黄褐色粒を少量含む。粘性、しまり有り。
12	暗褐色土	1～2mmの灰黄褐色粒を微量に含む。粘性強く、しまり有り。

SI-01土層説明

1	褐色土	灰白色粒を若干、1～2mmの明赤褐色粒を微量含む。
2	暗黄褐色	1～5mm灰白色粒を少量、5mm前後の橙色粒を微量含む。(盛土)
3	褐色土	1～2mmの灰白色粒少量、5mm前後の橙色ブロックを微量含む。
4	褐色土	20～30mmの灰白色ブロックを少量含む。
5	暗褐色土	1～2mmの灰白色粒少量、5mm前後の橙色ブロックを微量含む。
6	灰白色土	灰白色ブロックを多量含む。
7	暗灰白色土	1～2mmの灰白色粒多量、20～30mm灰白色ブロックを微量含む。
8	灰白色土	1～2mmの灰白色粒多量、20～30mm灰白色ブロック少量含む。
9	暗灰白色土	1～2mmの灰白色粒多量、20～30mm灰白色ブロックを微量含む。
10	暗褐色	灰白色粒を少量含む。
11	褐色土	灰白色粒を微量含む。
12	褐色土	灰白色粒を多量、10～50mmの灰白色ブロックを若干含む。
13	褐色土	2～3mmの灰白色粒を微量含む。
14	明黄褐色土	灰黄褐色土粒を多量含む。
15	明黄褐色土	灰白色土粒を多量含む。
16	暗黄褐色土	1mm前後の灰白色粒を若干含む。
17	暗灰褐色土	灰白色粒を少量含む。
18	灰白色土	灰白色土主体、灰黄褐色土を若干含む。
19	褐色土	灰黄褐色土をやや多量含む。
20	褐灰色土	1mm前後の灰白色粒を多量、10～50mmの灰白色ブロックを微量含む。
21	灰白色土	灰白色土を主体とする。
22	褐色土	灰黄褐色土を多量含む。
23	黒褐色土	灰白色ブロック・粒を多量含む。
24	灰黄褐色土	灰黄褐色土を主体とする。
25	灰黄褐色	灰黄褐色土を多量、10～20mm灰白色ブロックを若干含む。
26	灰褐色土	1～2mmの灰白色粒を少量、10mm前後の灰白色ブロック・2～3mmの黄褐色粒を若干含む。
27	灰褐色土	20～30mmの灰黄褐色ブロックを少量含む。
28	黒褐色土	1～2mmの灰白色粒を少量含む。
29	灰黄褐色土	灰黄褐色土を多量、10～50mmの灰黄褐色ブロックを少量含む。
30	黒褐色土	灰黄褐色粒をやや多量含む。
31	灰褐色土	灰白色粒を若干含む。
32	黒褐色土	灰白色粒を微量含む。
33	暗褐色土	灰白色粒を若干含む。
34	灰黄褐色土	灰黄褐色土多量、10～20mmの灰黄褐色土ブロックを少量含む。
35	黒褐色土	灰白色粒を微量含む。
36	灰褐色土	灰白色粒をやや多量含む。
37	黒褐色土	10mm前後の灰白色ブロックを微量含む。
38	灰褐色土	灰白色粒、5～10mmの灰白色ブロックを微量含む。
39	黒褐色土	灰白色粒を微量含む。
40	灰褐色土	灰白色粒を微量含む。
41	褐色土	灰白色粒・ブロックを多量含む。
42	黒色土	灰白色粒を微量含む。
43	褐色土	1mm前後の灰白色粒を少量含む。
44	灰褐色土	灰白色粒を少量含む。
45	黒褐色土	灰白色粒を微量含む。
46	黒褐色土	1～10mmの灰白色粒を少量含む。
47	黒褐色土	灰白色粒を多量含む。
48	褐色土	1～2mmの灰白色粒を微量含む。
49	黒褐色土	10～20mmの灰白色ブロックを少量含む。
50	黒色土	1～5mmの灰白色粒を若干含む。

永通宝が出土している。また、セクション面からは、柱が抜かれた痕跡や、柱痕の残る柱跡を確認することができた。

住居跡には柱穴が５基（P-1、3、4、5、6）並んだ状況で検出できた。

P-1 は、若干楕円形で直径 0.45m 前後、深さ 0.55m を測る。P-3 は、ほぼ円形で直径 0.38m、深さ 0.75m を測る。土層の状況から、柱が抜かれた可能性が考えられる。P-4 は、若干楕円形で直径 0.55m 前後、深さ 0.70m を測る。層位は黒色度灰白色土を多く含んだ土層が版築状になっており、2 層からは、礫が 4 個含まれていた。P-5 は、ほぼ円形で直径 0.55m、深さ 0.66m を測る。第 1 層からは P-4 と同様に礫が出土している。P-6 は、若干楕円形で直径 0.55m 前後、深さ 0.6m を測る。

住居跡内からは、柱穴の他に土坑が 2 基検出できた。P-2 は、ほぼ円形で直径 0.6m 前後、深さ 0.22m を測る。P-11 若干楕円形で直径 0.45m 前後、深さ 0.55m を測る。

住居跡から出土した遺物で図示できたものは、陶磁器 15 点、金属製品は、釘 3 点、不明円筒品 1 点、吊り金具 1 点である。

北側、南側ともに住居の大部分が調査区外に出ているが、調査区外の耕作面をピンポールで刺したところ、第 6 図のように、南側で調査区から 5.4m、北側で調査区から 6.2m まで延びていることが確認でき、住居の範囲の一部を推定することができた。

３区出土遺物（7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・24、第 1・2・4 表）

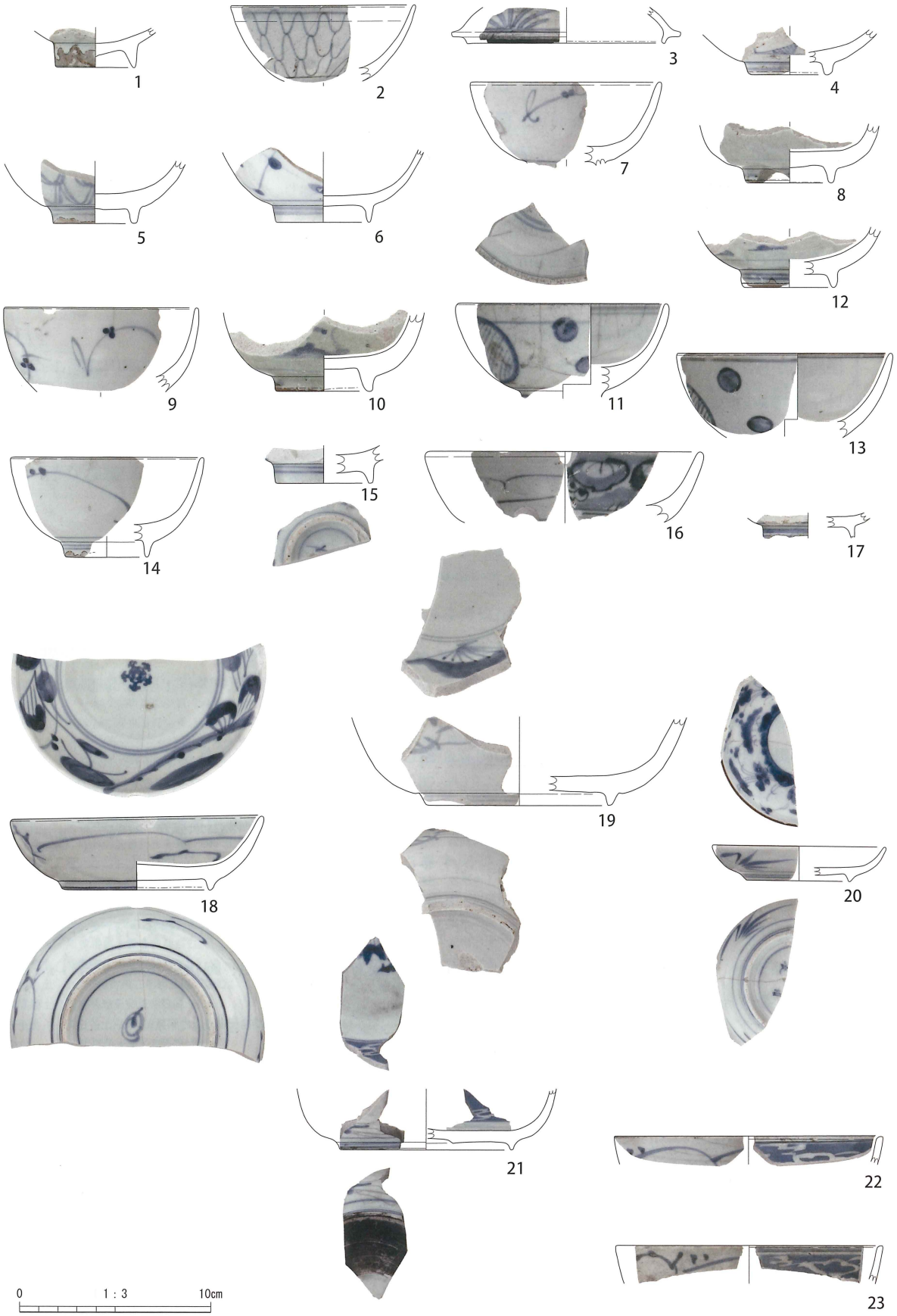
表土除去時に出土した遺物のうち、図示出来たものは、陶磁器 31 点。金属製品は、釘 14 点、釘と考えられる金属製品 8 点、不明鉄製品 4 点、不明板状品 2 点、鉤状品 1 点、和鋏 1 点。銅製品は、煙管雁首 1 点、煙管火皿部 1 点、煙管吸い口 2 点、毛抜き 1 点、環 1 点、ボタン状製品 1 点、砥石 1 点である。

4 区（第 7 図）

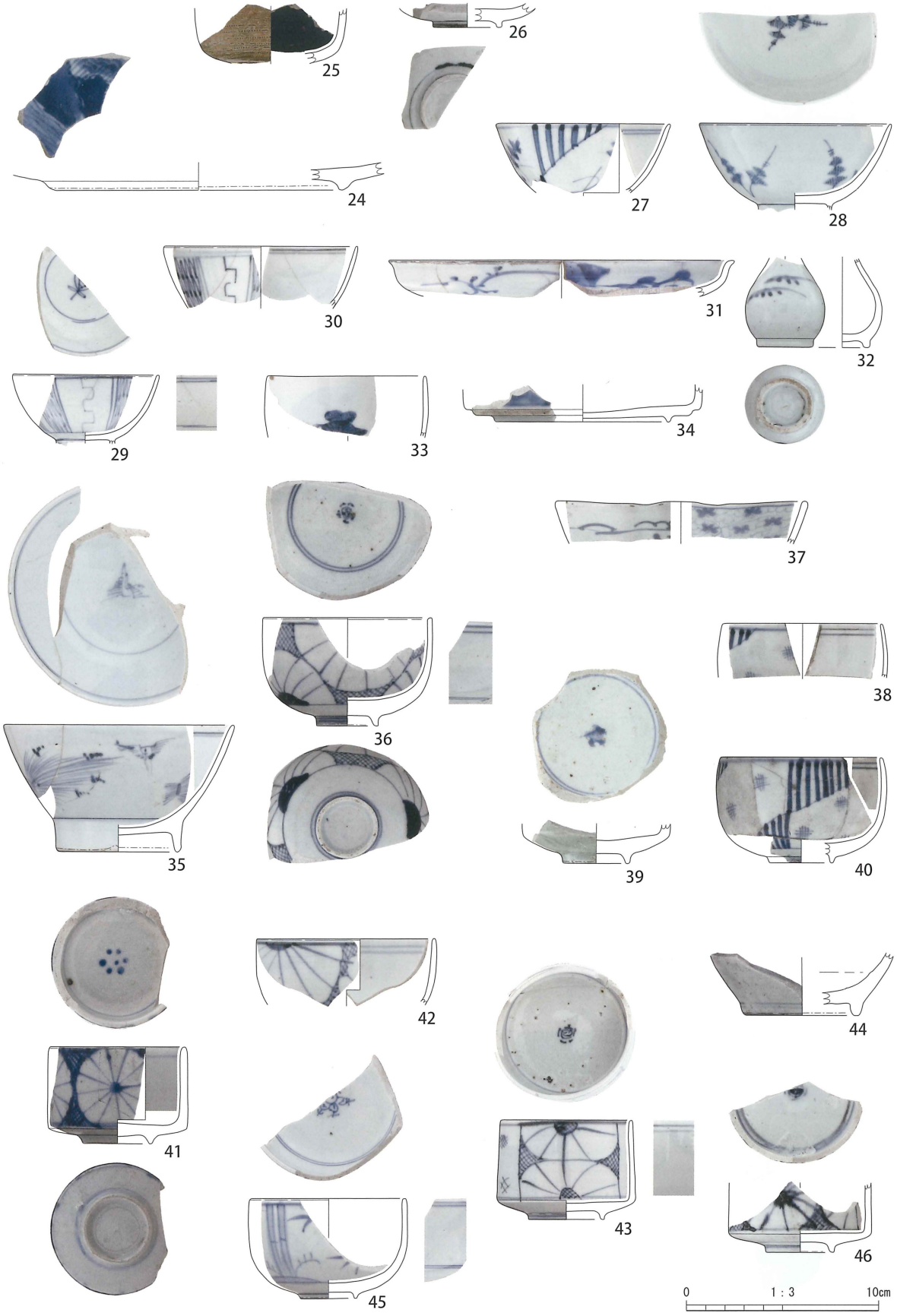
4 区は黒色土が厚く堆積しており、遺構の確認が難しかったが、一部を深掘りして柱跡を検出する事ができた。柱跡は底部に礫が置かれており、別の柱跡と重複していた。この深堀で遺構の土層の確認ができたため、他の箇所を丁寧に削平して遺構の検出を試みたが、他に遺構を検出することは出来なかった。

4 区からは、遺物が多数出土しているが、特出することは、寛永通宝が集中して出土したことである。寛永通宝は、柱の基礎石と考えられる平坦な礫から東に約 0.4m の位置から出土した。

4 区の出土遺物で図示できたものは、陶磁器 21 点、金属製品は、釘 23 点、釘と考えられる鉄製品 13 点、不明鉄製品 9 点、環状製品 1 点、刀子 1 点、板状品 3 点、長方形板状品 1 点、鉤状品 3 点、鉄滓 1 点である。図示していないが、鉄滓が多量に出土している。

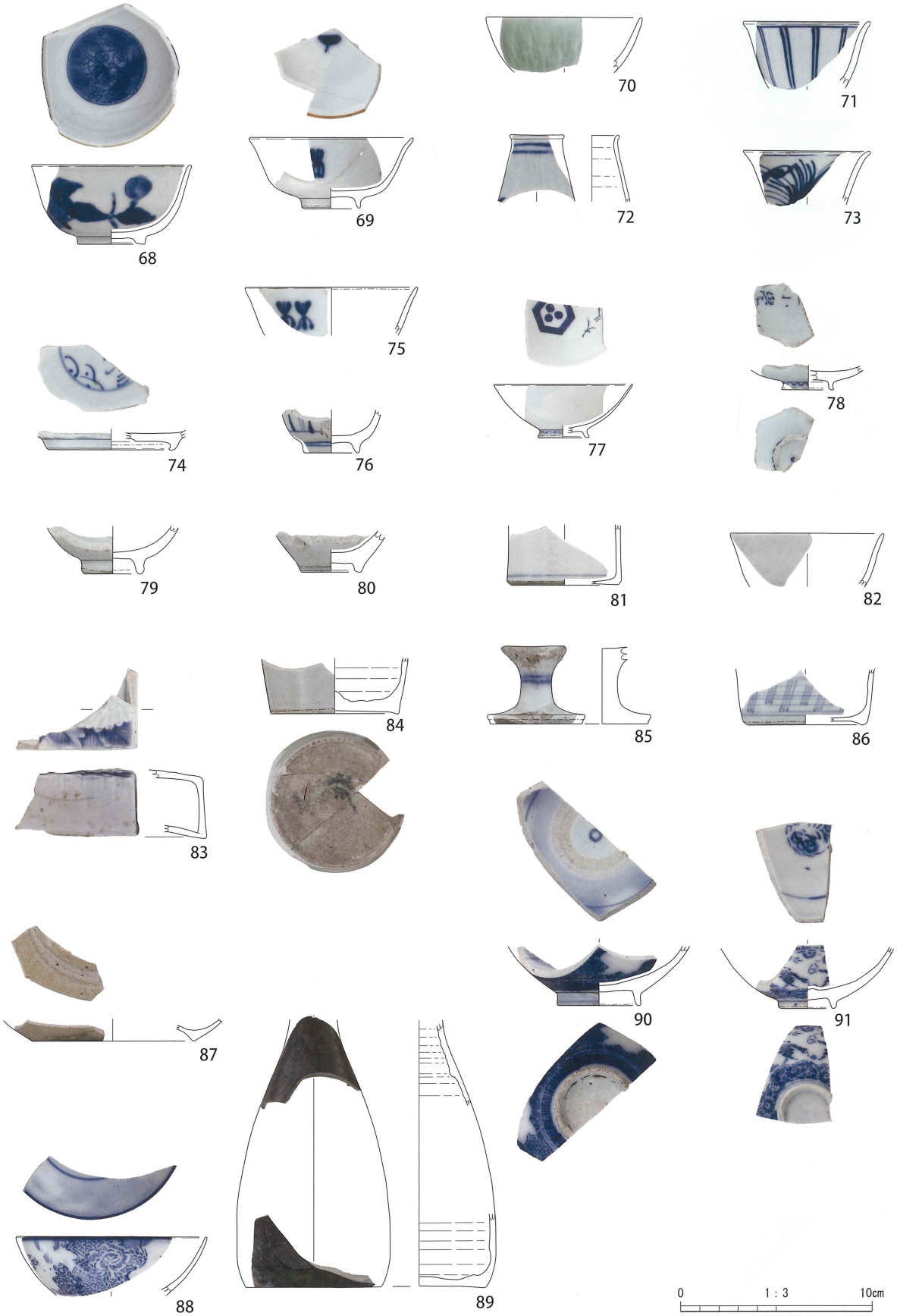


第８図　陶磁器実測図（1）


25
26
24
27
28
30
31
32
29
33
34
37
36
38
35
39
40
42
44
41
43
46
45
0
1：3
10cm

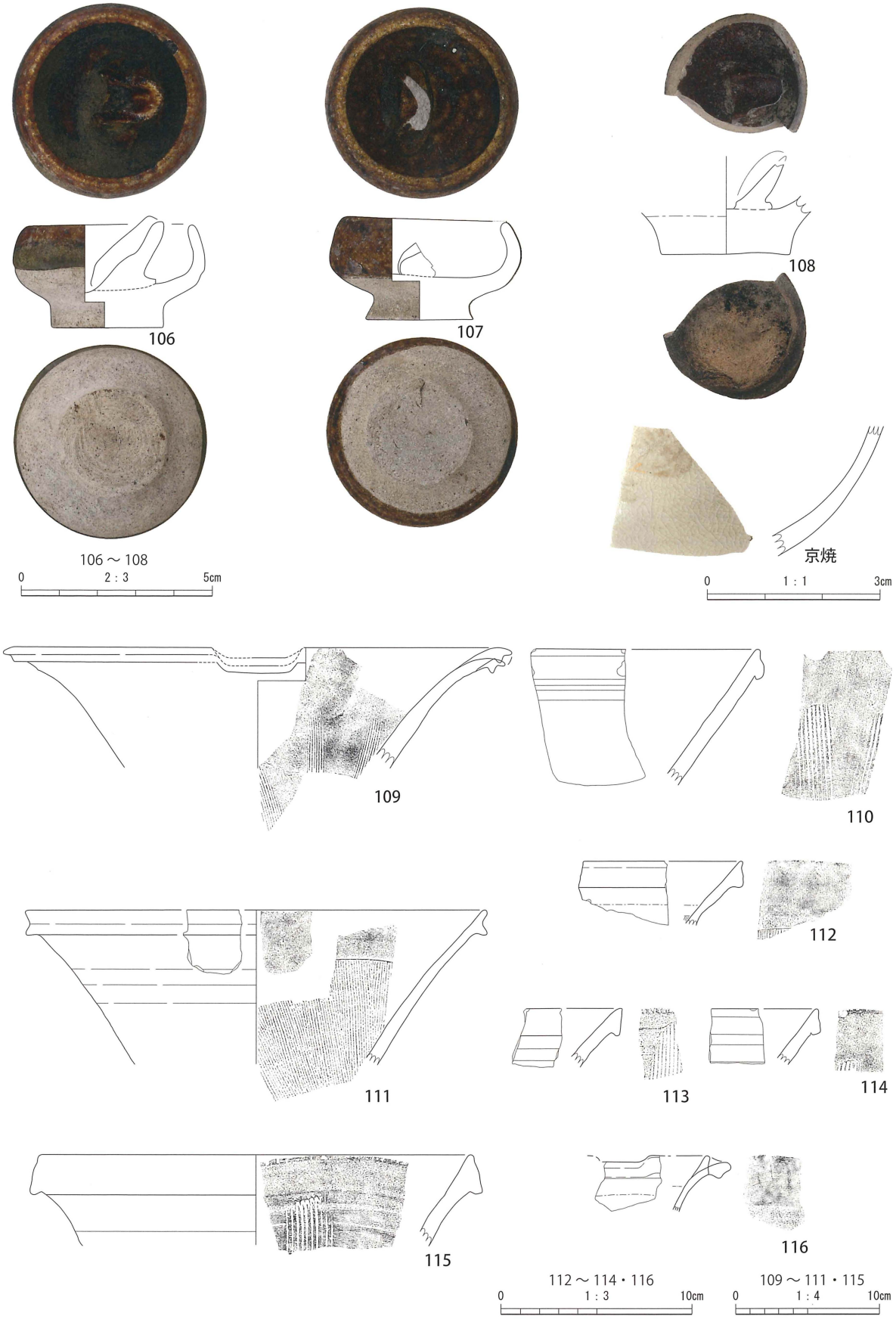
第９図　陶磁器実測図（2）

第 10 図　陶磁器実測図（3）

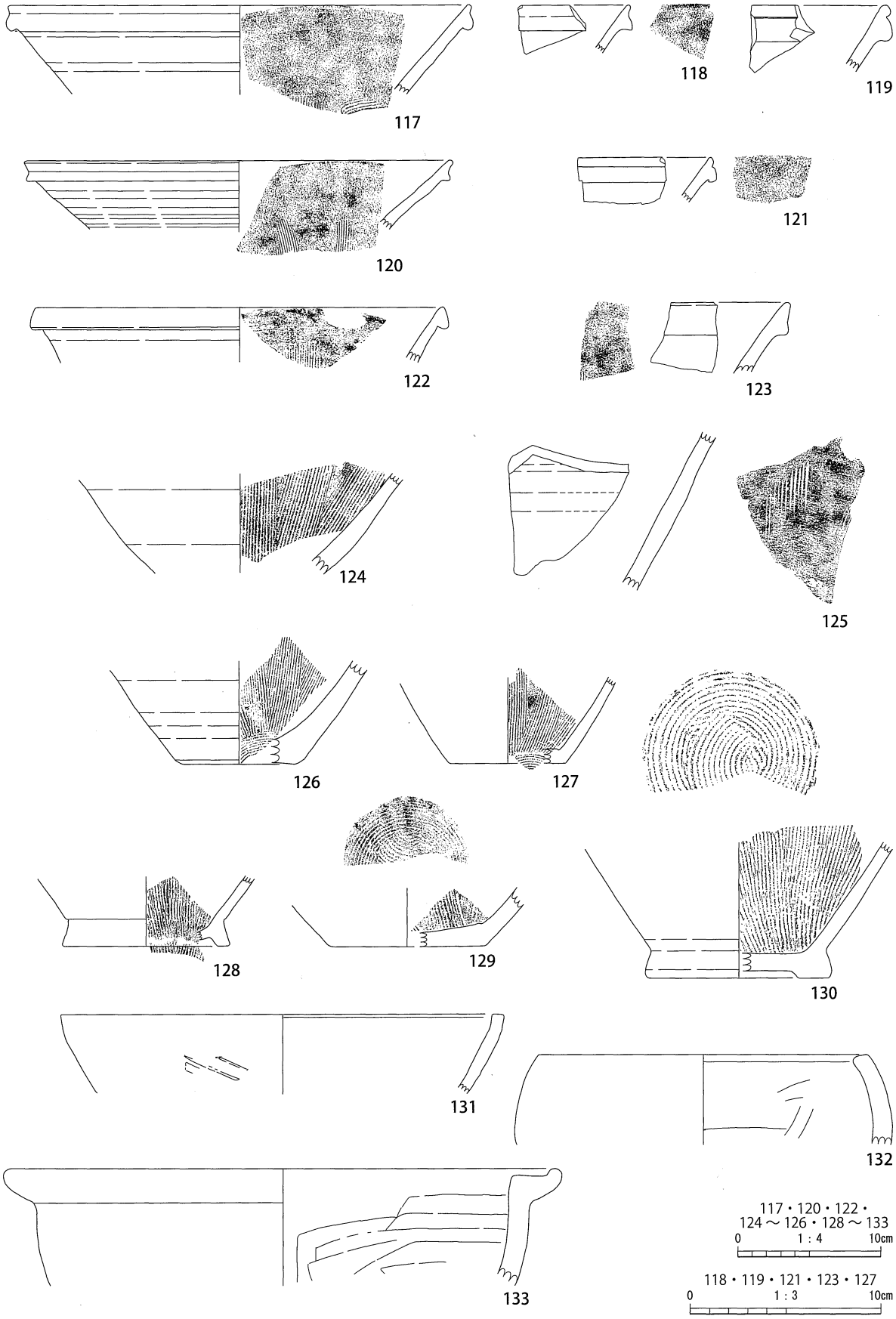


第 11 図　陶磁器実測図（4）

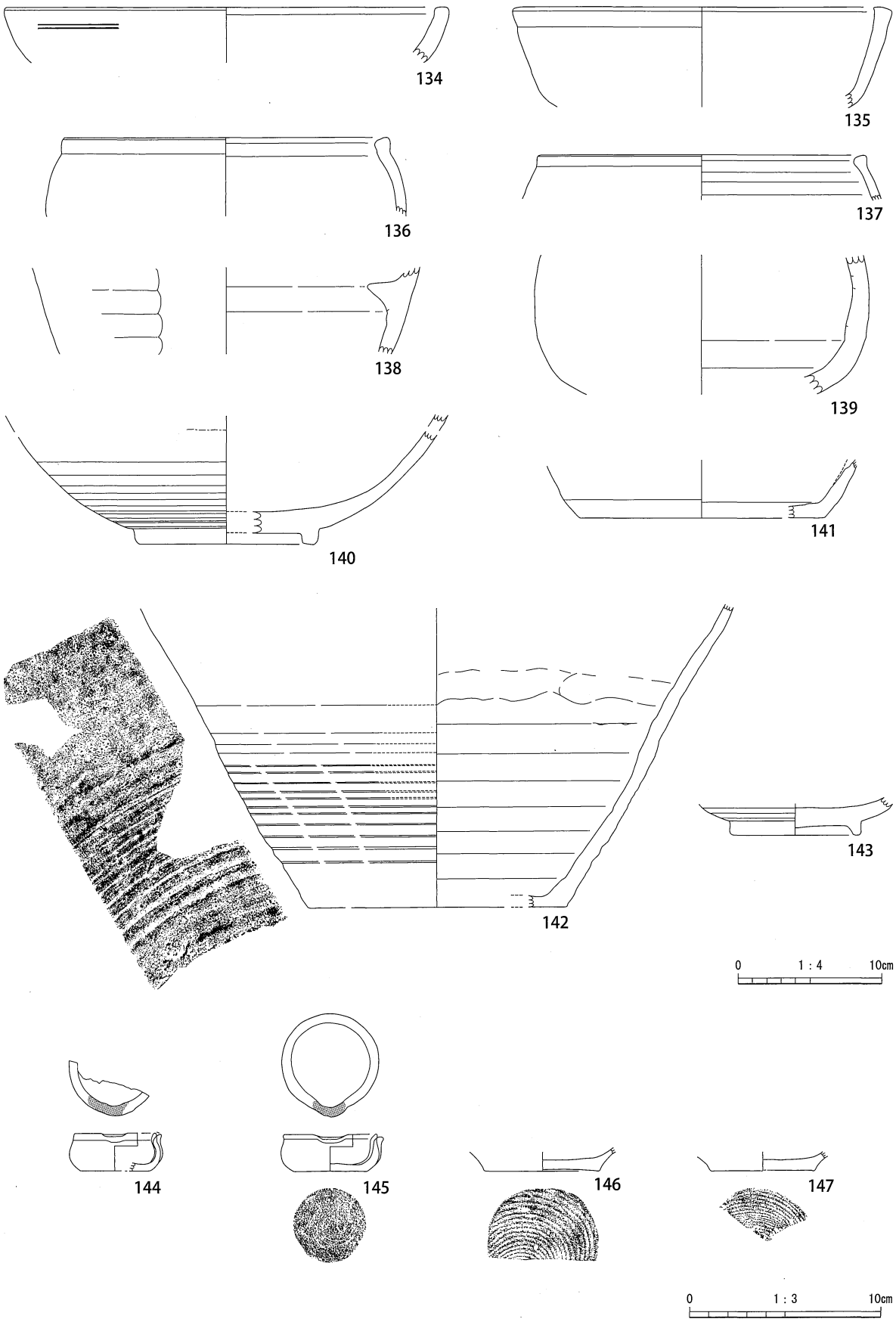
第 12 図　陶磁器実測図（5）



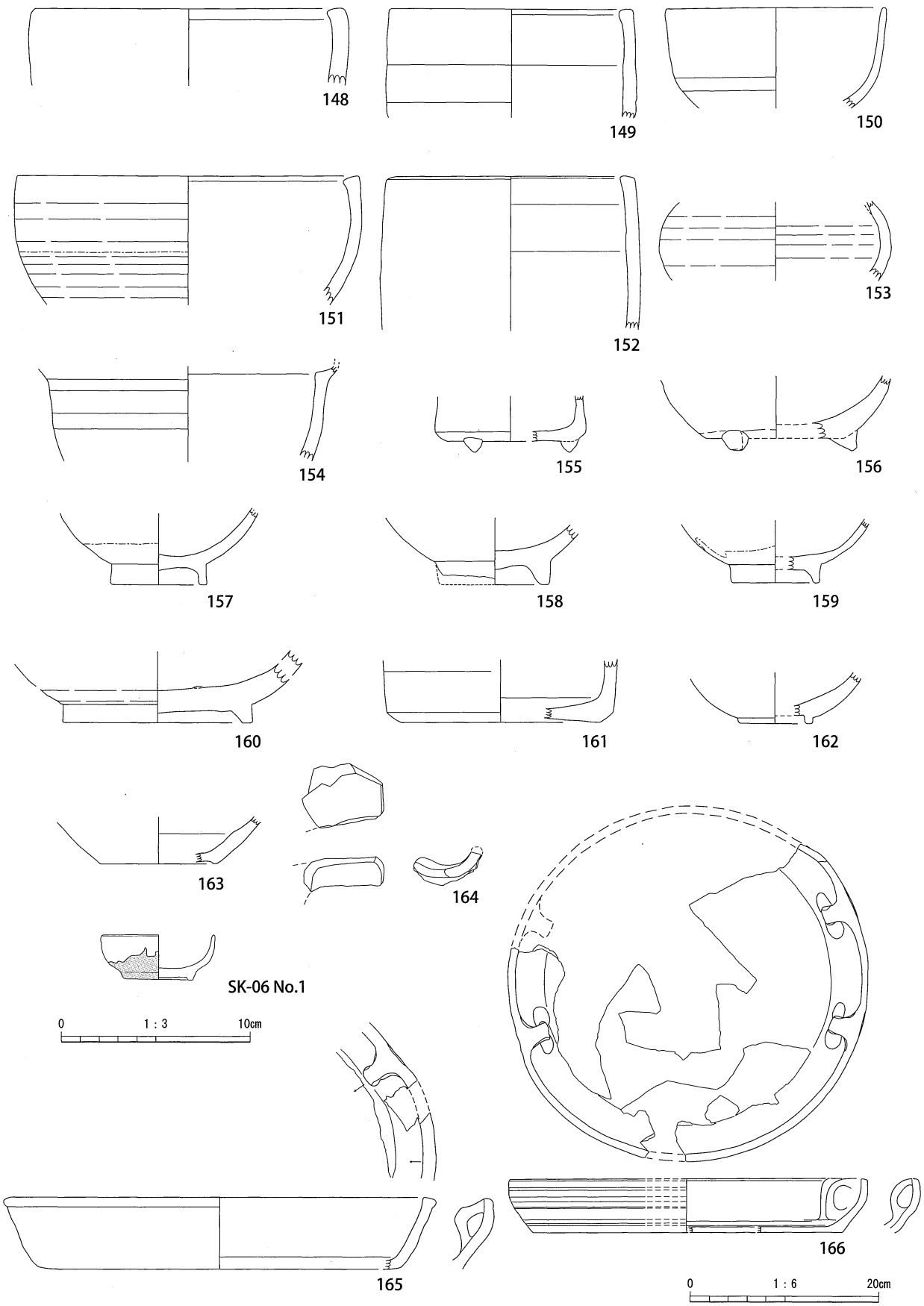
第 13 図　陶磁器実測図（6）



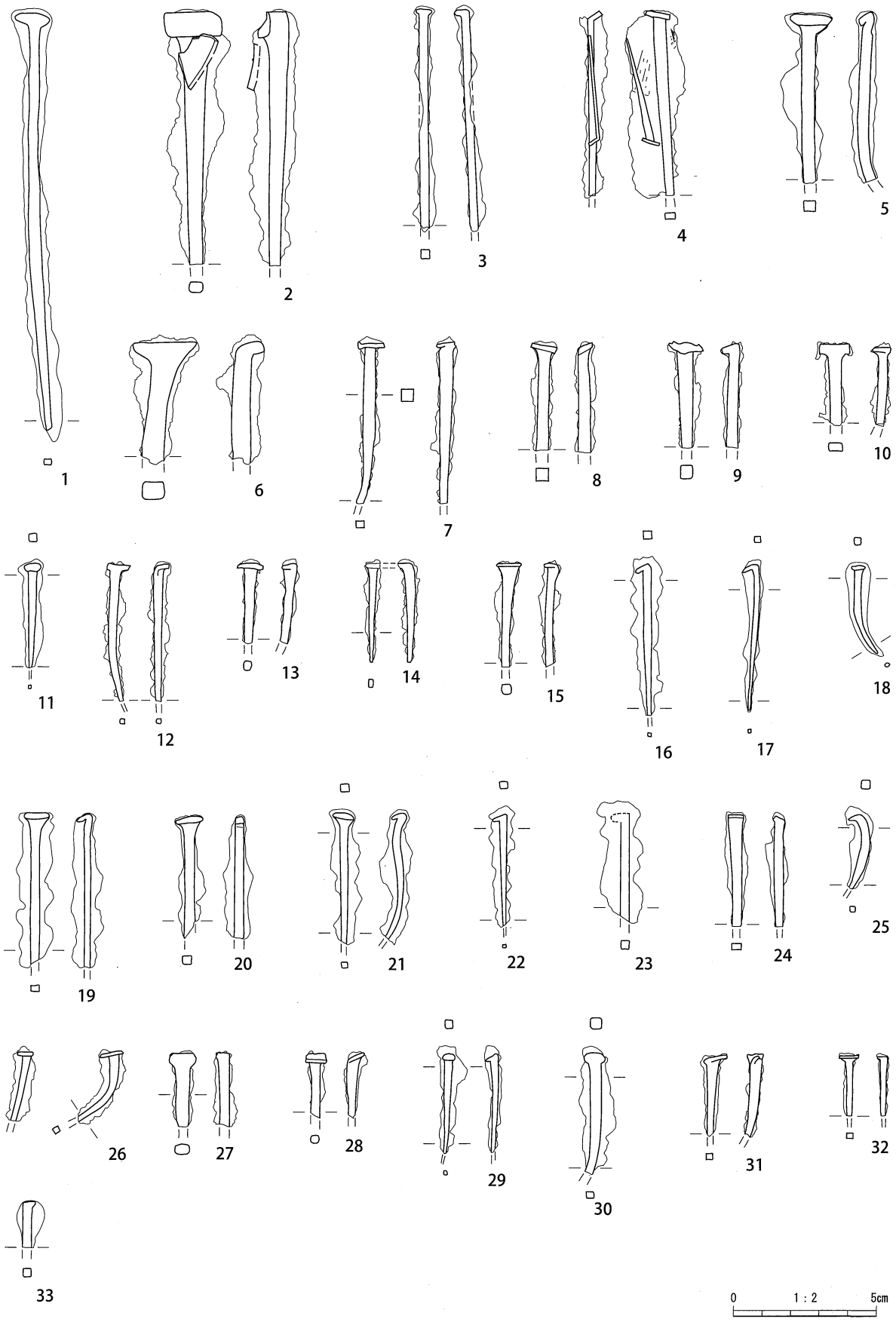
第 14 図　陶磁器実測図（7）



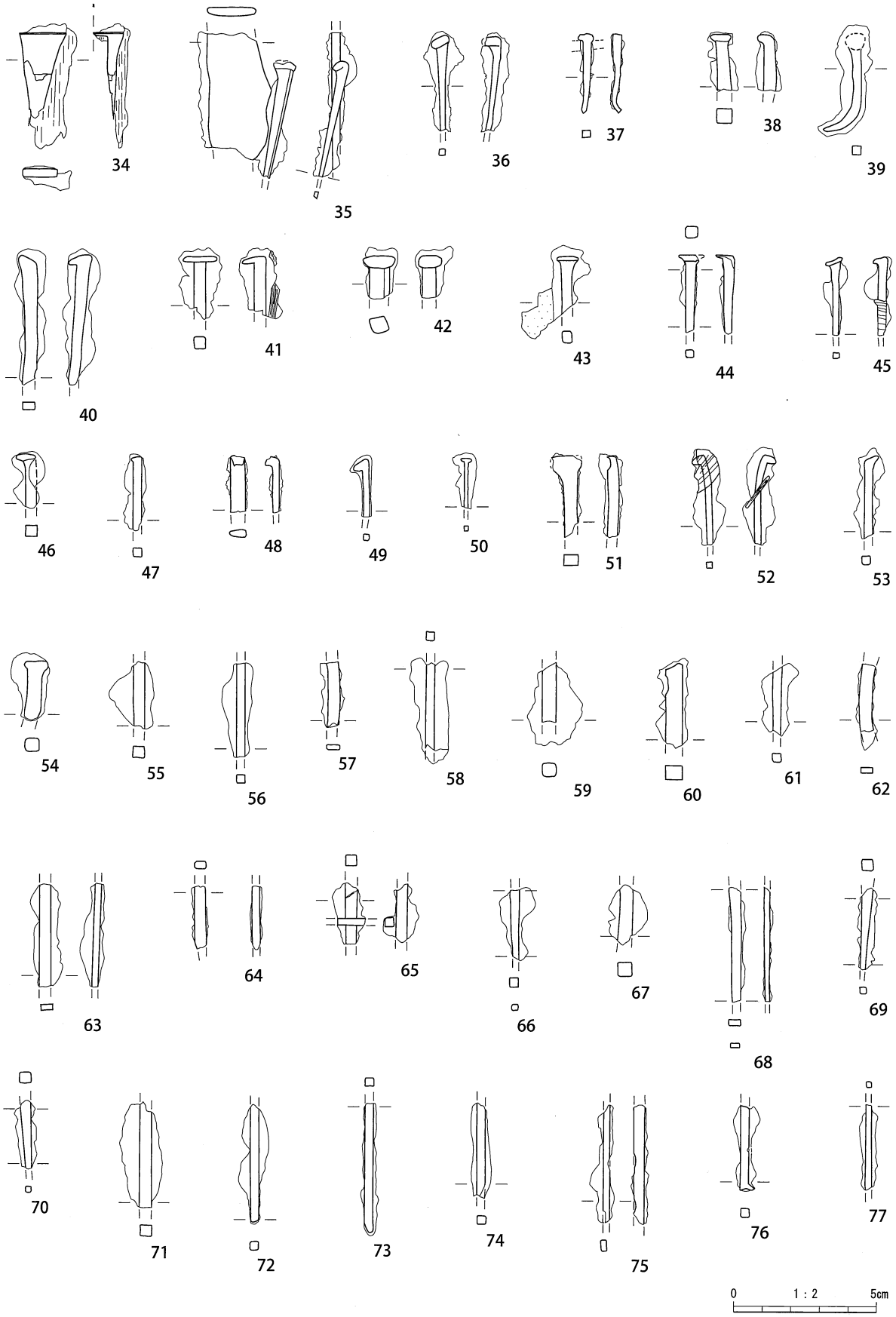
第 15 図　陶磁器実測図（8）



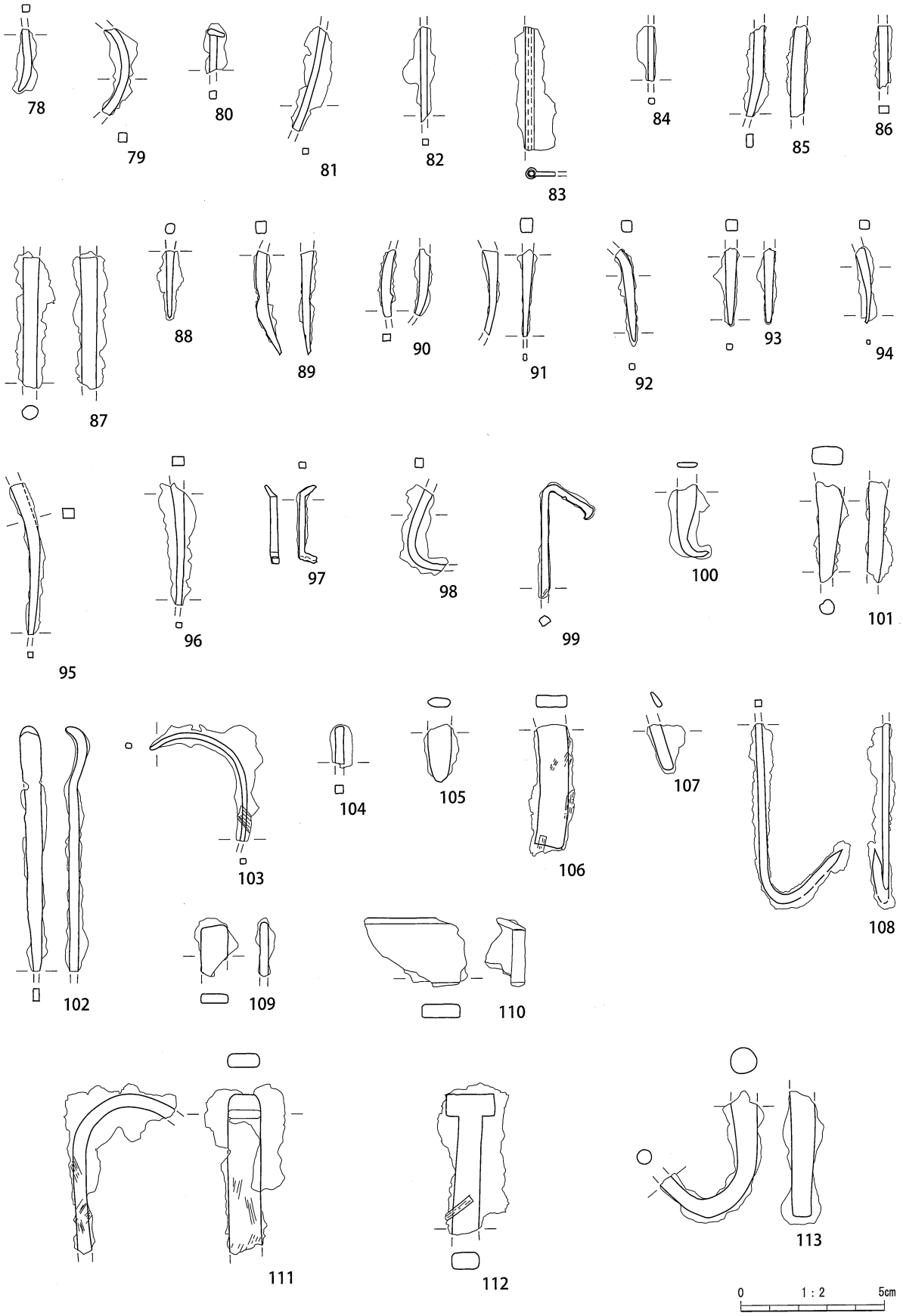
第 16 図　陶磁器実測図（9）



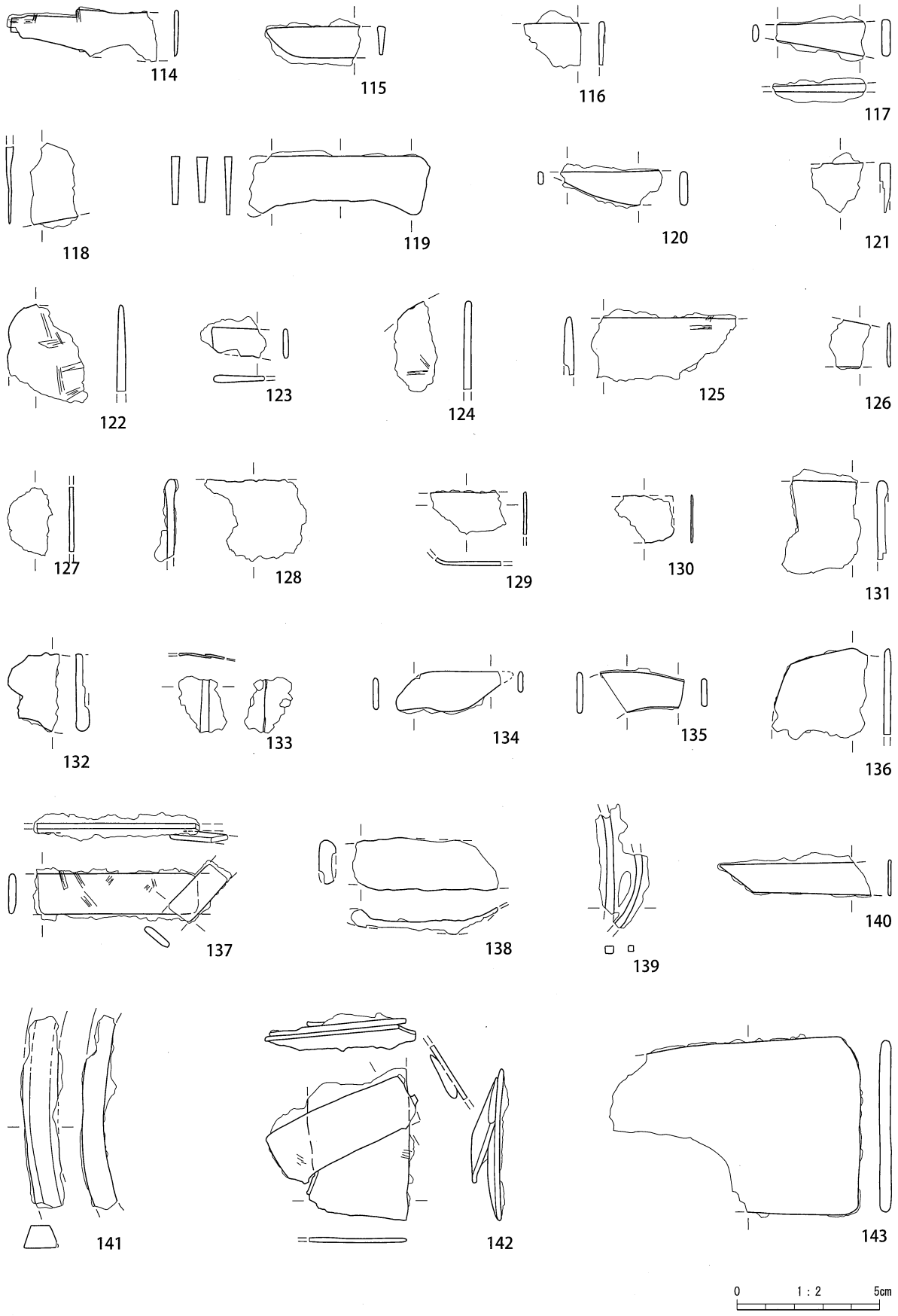
第 17 図　鉄製品実測図（1）



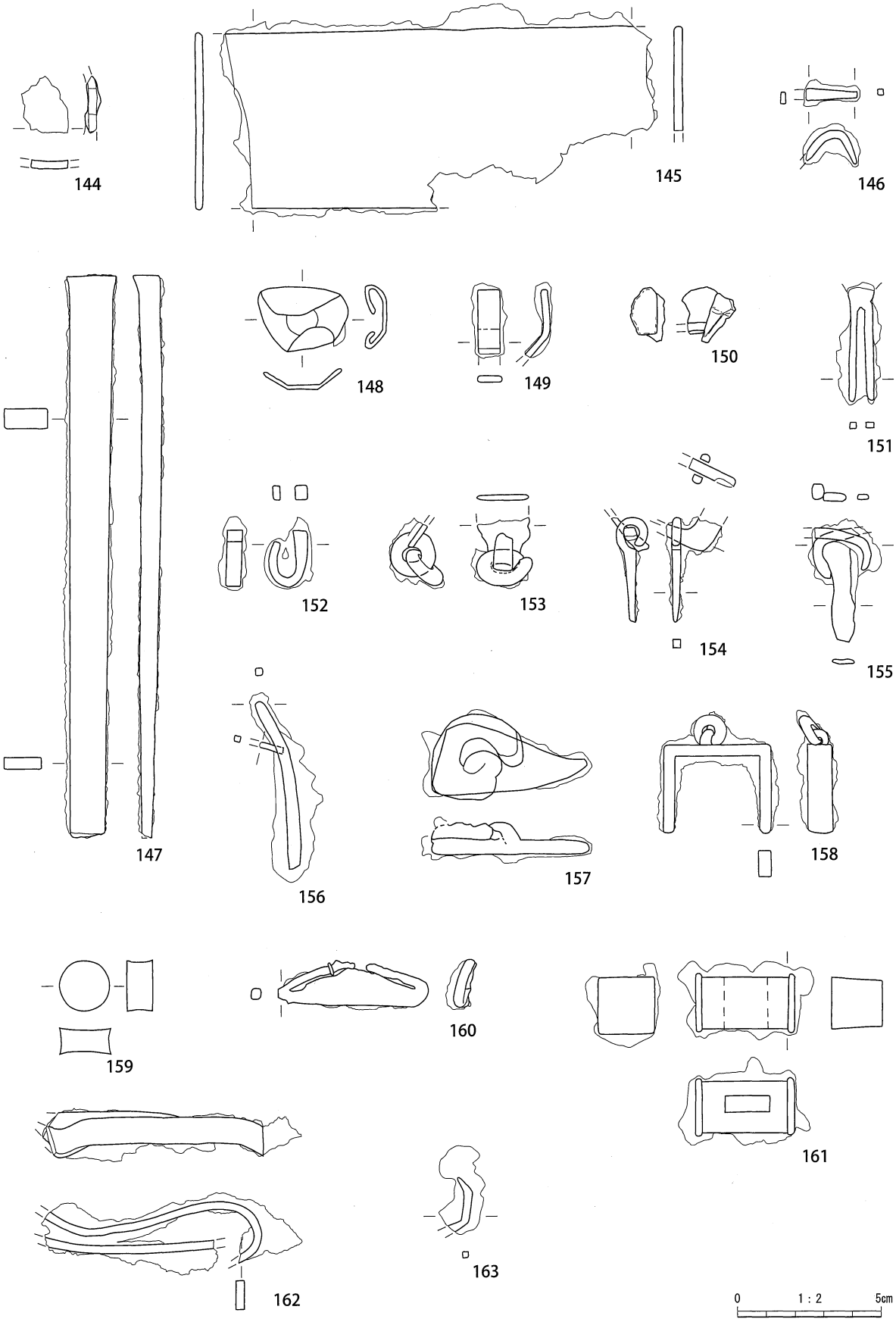
第 18 図　鉄製品実測図（2）



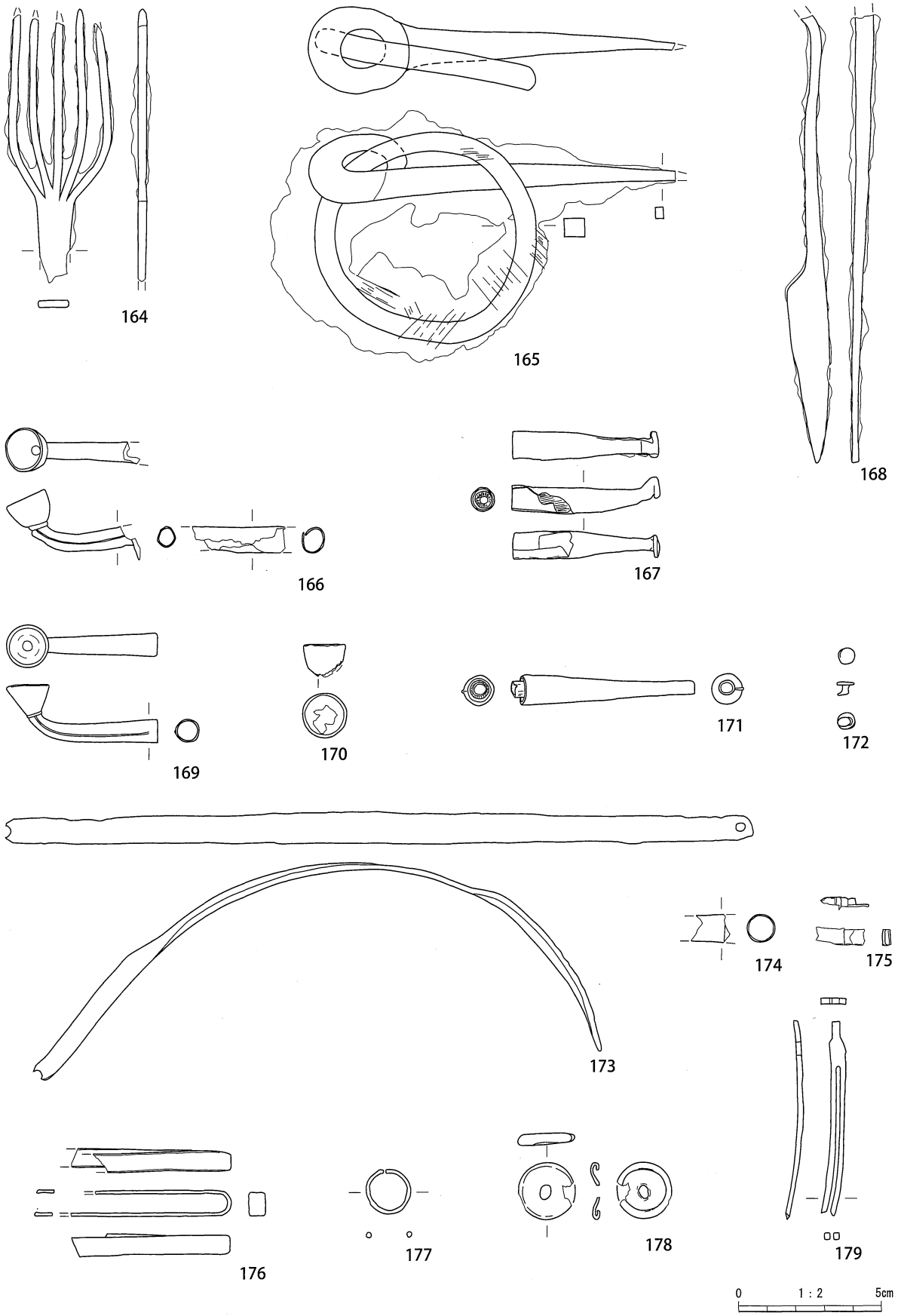
第 19 図　鉄製品実測図（3）



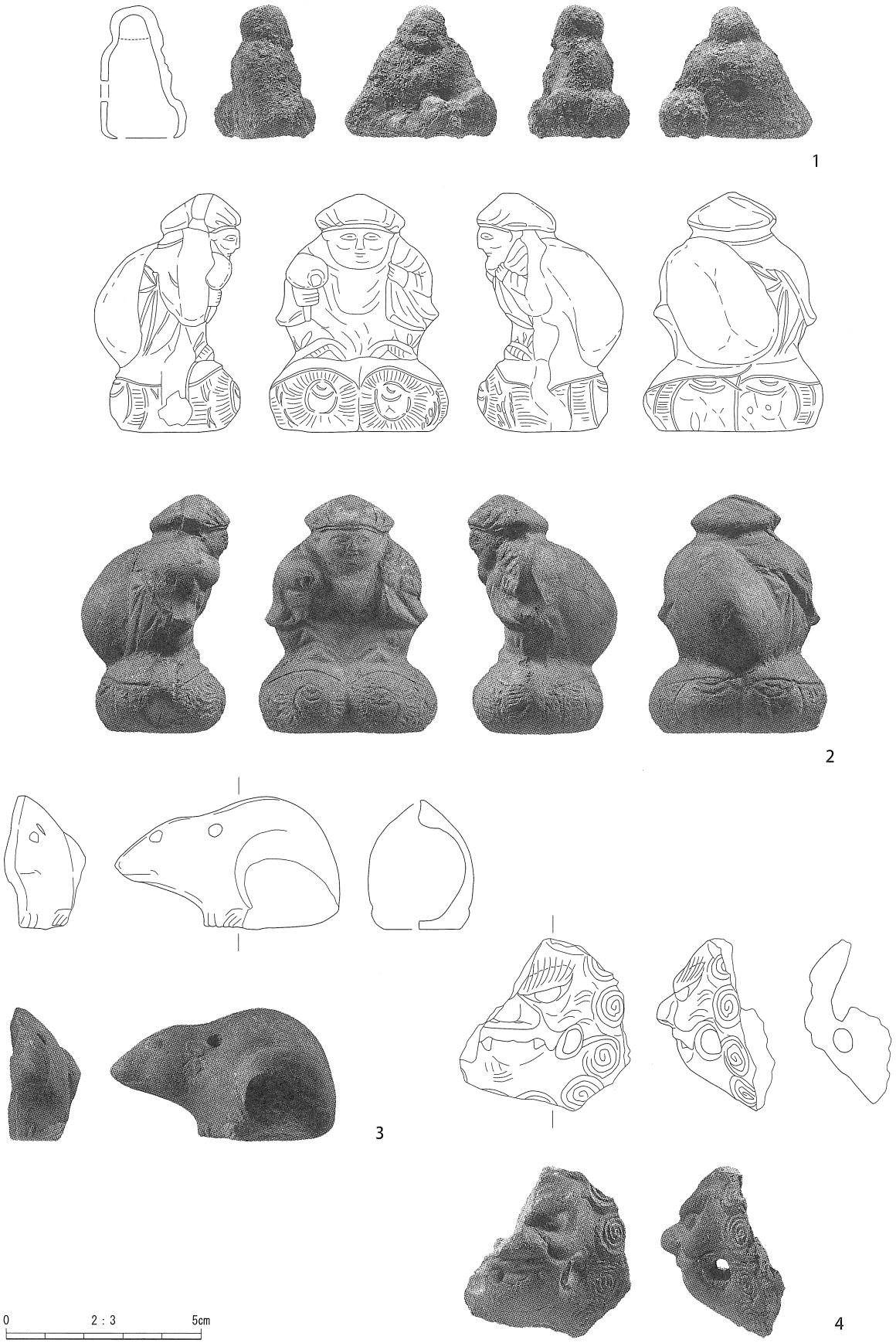
第 20 図　鉄製品実測図（4）



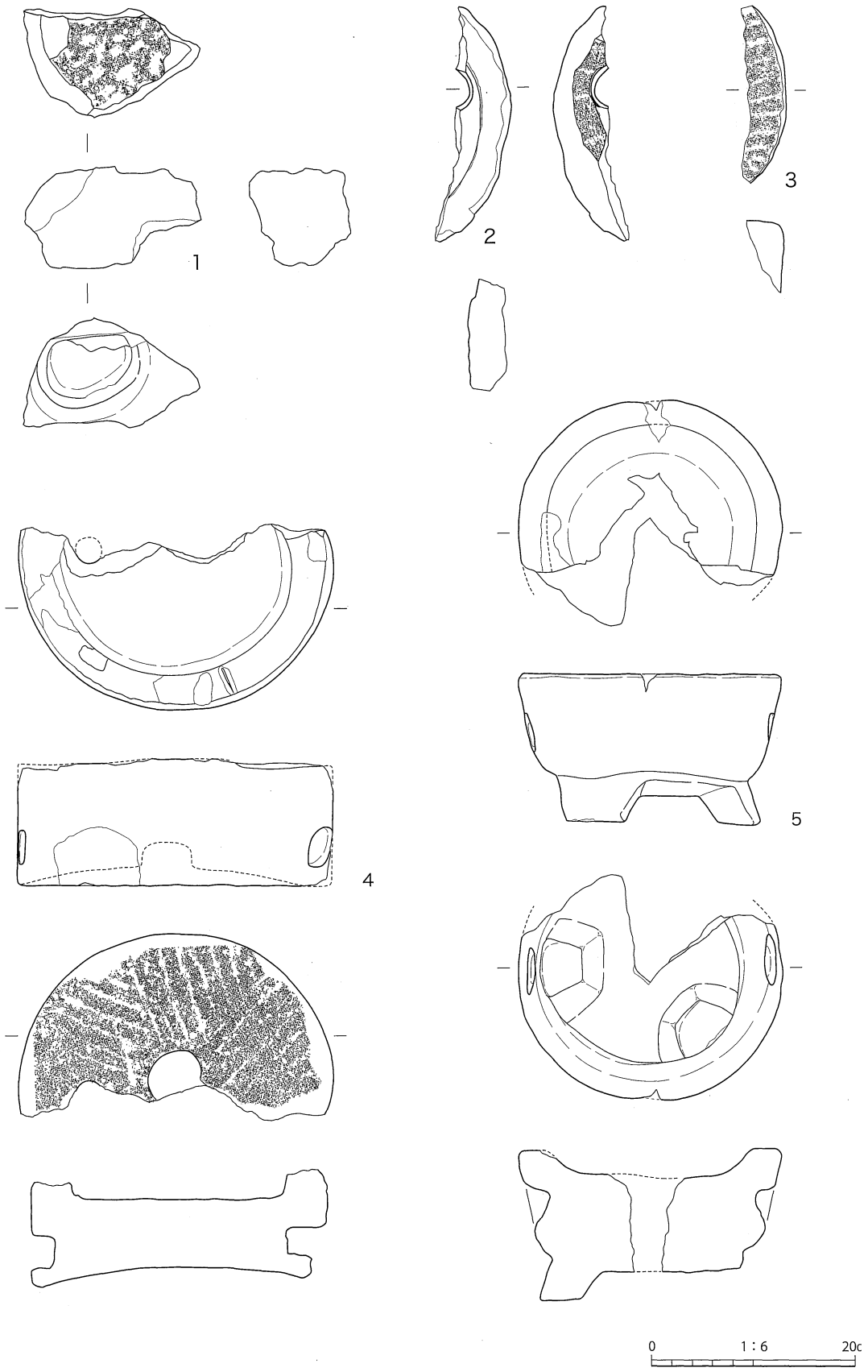
第 21 図　鉄製品実測図（5）



第 22 図　鉄製品実測図（6）

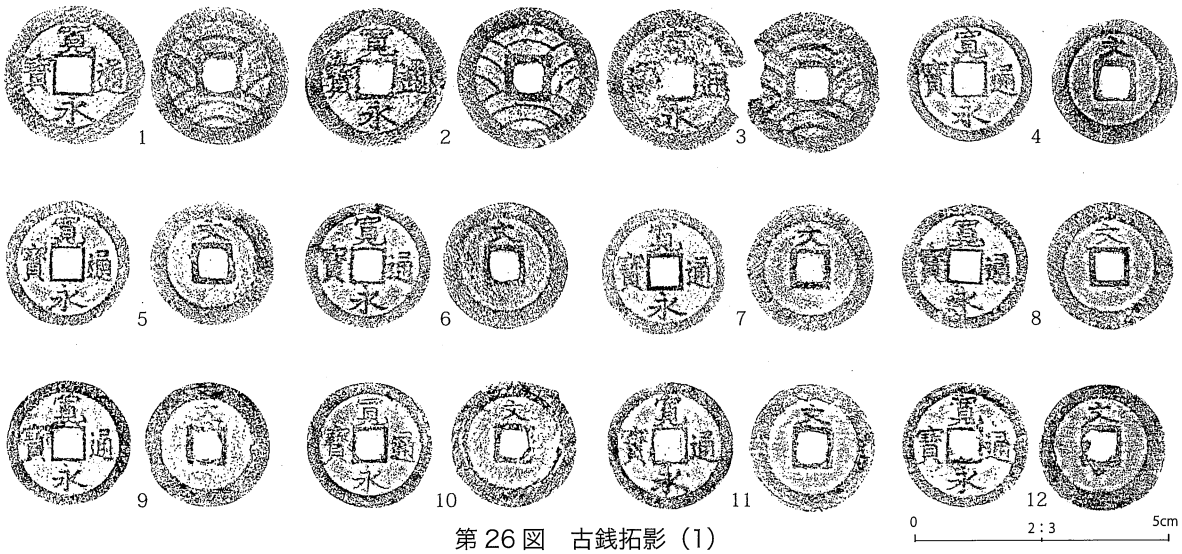


第 23 図　金属・土製品実測図

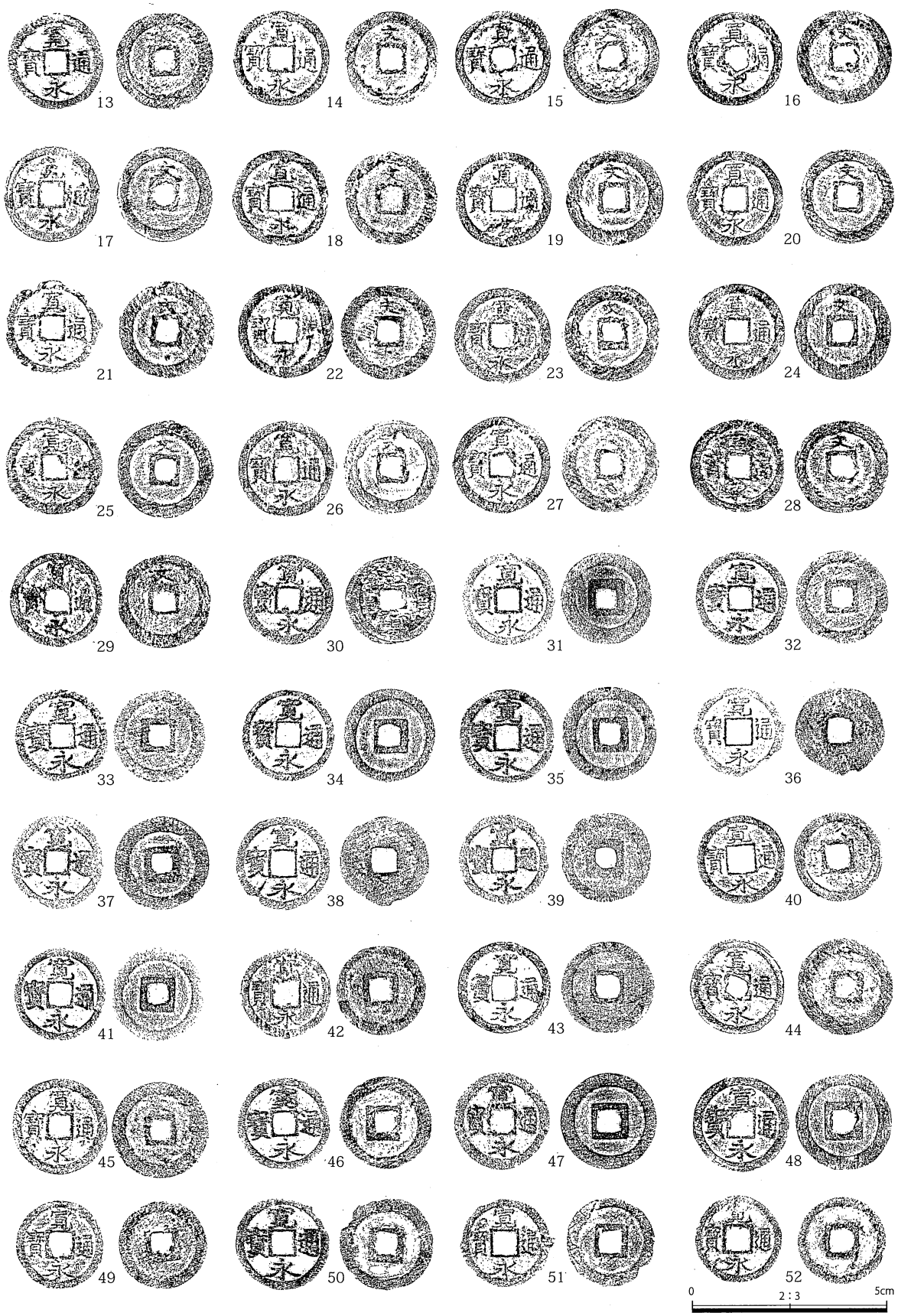


第 24 図　石製品実測図（1）

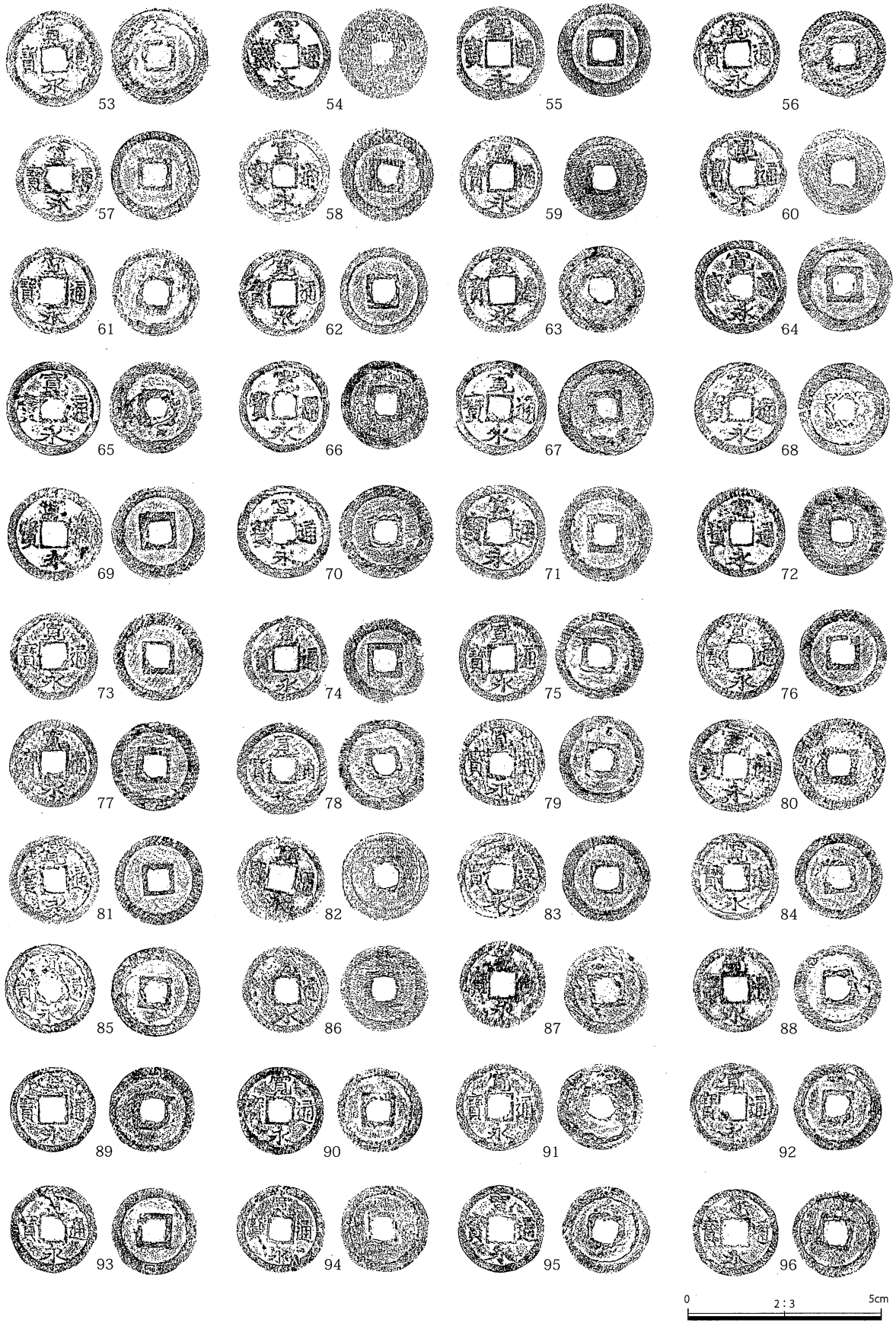
第 25 図　石製品実測図（2）



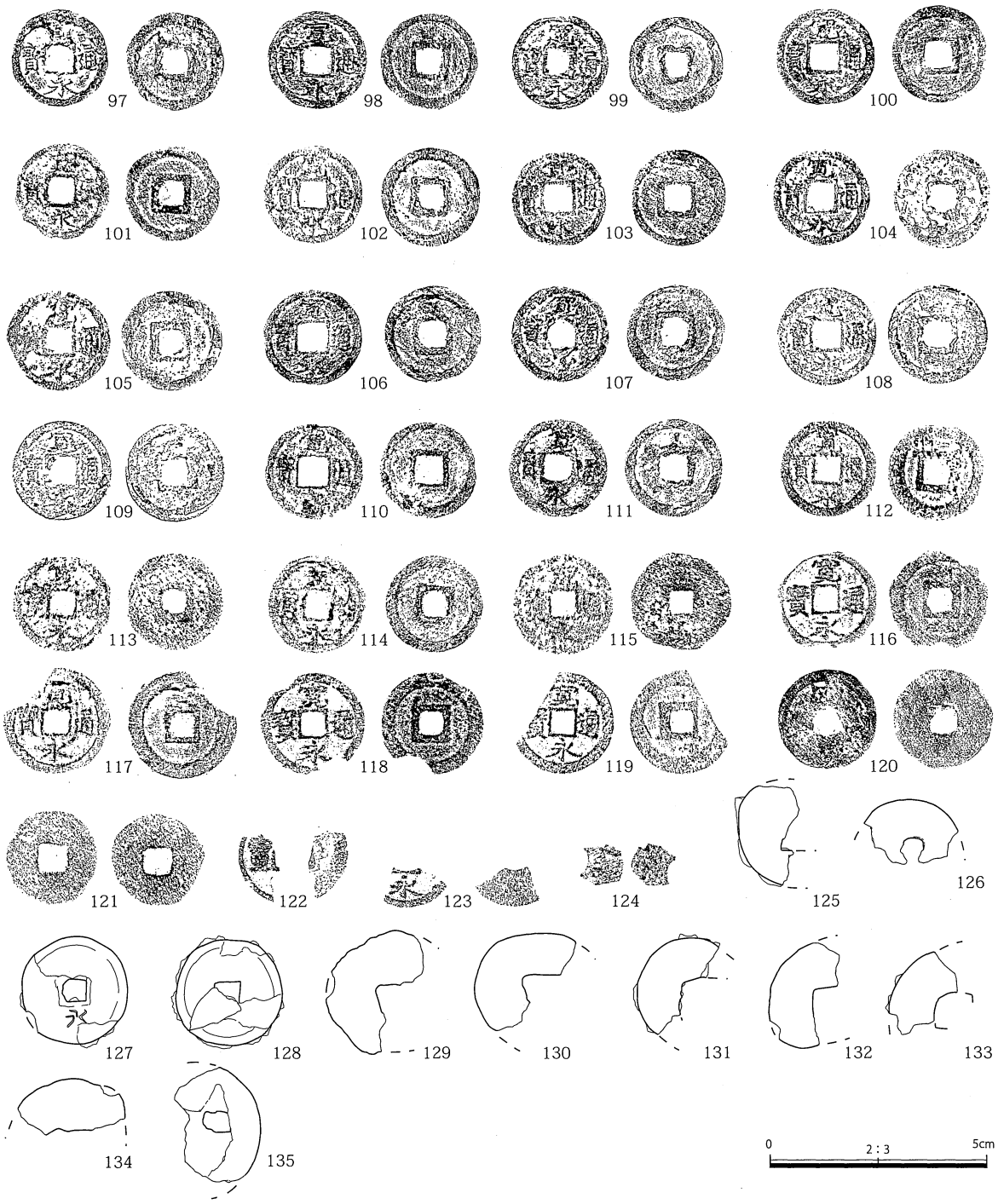
第 26 図　古銭拓影（1）


13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
0
2：3
5cm

第 27 図　古銭拓影（2）


53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
0
2:3
5cm

第28図　古銭拓影（3）


97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
0
2:3
5cm

第 29 図　古銭拓影（4）

第１表　陶磁器観察表

No.	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	技法・文様等（内面／外面／高台内）	産地等	残存	出土地	備考
1	磁器 丸碗	－	4.2	残2.1	内 透明釉／外 透明釉／底 高台無釉。初期伊万里様式。	肥前	底：完存	5区	1640～1650年代
2	磁器 丸碗	(9.6)	－	残4.0	外 染付、一重網目文。	肥前系	口：1/4以下	4区	17～18世紀
3	磁器 壺蓋	(10.3)	－	残1.9	外 染付、圏線・草花文。被熱あり。	肥前系	口：1/4以下	1区SK-7	17世紀後葉
4	磁器 丸碗	－	(3.8)	残2.4	外 染付、菊花文か 。	肥前系	底：1/4以下	4区No.1下	
5	磁器 丸碗	－	(4.4)	残3.3	外 染付、圏線・二重網目文。くらわんか手。	肥前系	底：1/4以下	4区	18～19世紀
6	磁器 丸碗	－	(5.0)	残3.8	外 染付、圏線・格子文に濃み。	肥前系	体：1/4以下 底：1/2以下	3区SI-01	
7	磁器 丸碗	(9.8)	(4.2)	残4.3	外 染付、梅樹文。	肥前系	口：1/4以下	2区表採	18～19世紀
8	陶胎染付 丸碗	－	4.5	残3.1	外 圏線、貫入あり。	肥前	底：3/4	5区	17世紀末～18世紀前半
9	磁器 丸碗	(10.0)	－	残4.4	外 染付、梅樹文。	肥前系	体：1/4	2区表採	
10	陶胎染付 丸碗	－	5.0	残4.1	外 染付、山水文、貫入あり。	肥前	底：完存	3区	17世紀末～18世紀前半
11	磁器 丸碗	(11.0)	－	残5.0	内 染付、圏線／外 丸文、圏線。	肥前系	口～体：1/4以下	1区S-7	18世紀末～19世紀中葉
12	陶胎染付 丸碗	－	(4.5)	残3.2	外 染付、圏線、貫入あり。	肥前	底：1/3	4区No.1下	17世紀後半～18世紀初
13	磁器 丸碗	(11.2)	－	残4.4	内 染付、圏線／外 丸文・圏線。	肥前系	口：1/4以下	3区	18世紀末～19世紀中葉
14	磁器 丸碗	(10.0)	(4.3)	5.2	外 染付、梅樹文。	肥前系	口～底：1/4以下	2区	18世紀～19世紀
15	磁器 丸碗	－	(5.1)	残2.0	外 染付、高台内外圏線。くらわんか手。	肥前波佐見系	底：1/2以下	4区	18世紀前半
16	磁器 皿	(14.2)	－	残3.7	内 染付・濃み／外 草木文か。くらわんか手。	肥前系	口：1/8以下	5区	18世紀前葉～中葉
17	磁器 碗か	－	－	残1.4	外 圏線。	肥前系	底：1/2以下	3区	
18	磁器 皿	(13.0)	7.6	最大3.9	内 染付、濃み。草花文、底部五弁花／外 梅樹文。くらわんか手。	肥前系	口～底　1/2	1区・2区	18世紀
19	磁器 碗	－	(9.6)	残4.6	内 染付、扇面文・圏線／外 唐草文か。	肥前系	体～底：1/4以下	1区	18世紀
20	磁器 小皿	(9.0)	(5.4)	1.8	内 染付、雪輪梅樹文／外 体部草文・圏線、底部文字。	肥前系	口～底：1/4以下	3区・3区No.1	18～19世紀
21	磁器 皿	－	(8.9)	残3.2	内　染付／外 体部圏線、底部 釉剥ぎ蛇の目高台。	肥前系	底：1/6以下	1区	1690～1780年代
22	磁器 皿	(14.0)	－	残1.5	内 染付／外 梅樹文。	肥前系	口：1/6以下	1区SK-07	
23	磁器 皿	(13.9)	－	残2.0	内 染付／外 梅樹文。	肥前系	口：1/6以下	1区SK-07	
24	磁器 皿	－	(14.9)	残1.4	内 染付、山水文／外 畳付け釉剥ぎ	肥前系	底：1/6以下	2区表採	18世紀
25	陶器 碗	－	－	残2.9	外 灰釉、鎧手／底 鉄釉。	美濃	口縁部一部欠	1区	18世紀
26	磁器 碗か	－	(3.6)	残1.3	外 染付、圏線。	肥前系	底：1/4以下	3区	18世紀以降か
27	磁器 丸碗	(9.0)	－	残3.1	内 染付、圏線／外 草花文	肥前系	口：1/4	3区SI-01	18世紀後半
28	磁器 丸碗	(10.0)	－	残4.5	内 染付、草木文／外 草木文・圏線。	肥前系	口～底：1/2以下	2区	18世紀後半
29	磁器 小碗	(7.6)	－	残3.6	内 染付、圏線／外 筆描きによる鎬文・櫛目文。	肥前系	口～底1/4以下	1区	18世紀後半
30	磁器 小碗	(10.0)	－	残3.3	内 染付、圏線／外 細筆描きによる鎬文・櫛目文。	肥前系	口：1/8	1区	18世紀後半
31	磁器 皿	(18.0)	－	残2.0	内 染付、唐草文／外 草花文(唐草文状)。	肥前系	口：1/4以下	1区	18世紀後半
32	磁器 瓶	－	2.8	残4.7	外 染付、草花文。	肥前系	体：2/3以下 底：完存	3区	18世紀後半
33	磁器 小丸碗	(8.0)	－	残3.2	外 染付、樹文か、濃み。	肥前系	口：1/4以下	注記不明	18世紀後葉以降
34	磁器 段重	－	(9.0)	残1.9	外 染付濃み ／底 釉剥ぎ、高台裏に無釉のアルミナ付着。	肥前系	底：1/4以下	4区No.1	18世紀後半以降
35	磁器 広東碗	(12.0)	6.2	最大6.7	外 染付、圏線と鳥・稲束文。	肥前有田系	口～底1/2以下	1区	1780～1860年代
36	磁器 小丸碗	(8.8)	3.2	残5.6	内 染付、圏線、見込みに五弁華／外 半菊文。	肥前系	口～体：1/3 底：完存	2区	18世紀後葉

No.	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	技法・文様等（内面／外面／高台内）	産地等	残存	出土地	備考
37	磁器 輪花 皿	(13.0)	－	残2.2	型造り。内 染付、うろこ文／外 唐草文。	肥前系	口：1/8	4区	18世紀後葉
38	磁器 小丸碗	(8.2)	－	残2.8	内 染付、圏線／外 幾何学文・格子文。焼き継ぎ痕あり。	肥前系	口：1/8以下	1区SK-07	18世紀後葉以降
39	磁器 筒形碗	－	3.5	残2.1	内 染付、圏線、見込み コンニャク判で五弁華／外 青磁。		底：完存	2区表採	18世紀後半
40	磁器 小丸碗	(8.2)	(3.2)	5.5	内 染付、圏線／外 幾何学文・格子文。焼き継ぎ痕あり。格子文。	肥前系	口～底1/3以下	1区・1区SK-07	1780～1860年代
41	陶胎染付 筒形碗	(7.1)	3.0	5.0	内 染付、圏線、見込み 梅鉢文／外 菊花文。	瀬戸・美濃	口～体：1/4 底：完存	3区SI-01	18世紀後葉以降
42	磁器 小丸碗	(9.3)	－	残3.4	内 染付、圏線／外 半菊文。	肥前系	口：1/4以下	3区SI-01	1780～1860年代
43	磁器 筒形碗	最大6.8	3.9	5.2	内 染付、圏線、見込み 五弁花文／外 半菊文・圏線。	肥前系	口～体：2/3 底：完存	1区	1780～1860年代
44	磁器 瓶	－	(5.8)	残3.3	内 無釉／外 圏線。被熱。		底：1/4	3区北	18世紀後葉以降
45	磁器 丸碗	(8.0)	(3.0)	5.2	内 染付、圏線、見込み 五弁花文／外 竹文・圏線。	肥前系	口～底：1/4以下	1区	18世紀後葉
46	磁器 筒形碗	－	(3.5)	残3.6	内 見込み圏線・五弁華／外 菊花文。	肥前系	体～底：1/4以下	2区	1780～1860年代
47	磁器 皿	(13.3)	8.8	3.7	内 体部染付、濃み目立つ、見込み半花文・唐草文／外 底釉剥ぎ蛇の目高台。	肥前系	口：1/6 底：完存	1区S-7・2区	18世紀後葉以降
48	磁器 小丸碗	－	(4.9)	残2.0	内 染付、見込みに文様。／外 圏線。	肥前系	底：1/4	3区SI-01	18世紀後葉以降
49	磁器 丸碗	(12.0)	－	残3.8	外 染付、濃み	肥前系	口1/8以下	3区SI-01	18世紀後葉以降
50	磁器 御酒徳利	1.7	(2.8)	10.0	外 染付、草花文。	肥前系	口：完存 体～底：1/2	1区S-7	18世紀後葉以降
51	磁器 小丸碗	－	(3.2)	残2.2	内 染付、圏線、見込み「来」／外 矢羽根文・圏線。	肥前系	底：ほぼ完存	3区	18世紀後葉以降
52	磁器 小丸碗	－	(3.1)	残4.0	内 染付、圏線・五弁華／外 雪輪文。	肥前系	体～底1/4以下	4区No.1下	18世紀後葉以降
53	磁器 広東碗	－	(5.3)	残2.2	外 染付、圏線。被熱。	瀬戸・美濃系	底：1/5	3区	19世紀
54	陶器 碗	(9.3)	－	残3.9	外 腰錆。	瀬戸・美濃	体：1/8以下	3区	18世紀末～19世紀
55	磁器 皿	(22.2)	(13.3)	2.8	内 染付、白線半花文、濃み目立つ／外 唐草文。	肥前系	口～底：1/6	1区	19世紀前半
56	磁器 小丸碗	－	(4.4)	残3.2	外 染付、竹文・圏線。	肥前系	底：1/6	1区	19世紀
57	陶器 蓋か	9.0	－	3.0	外 沈線による畳状文を地に呉須・白泥釉・梅文。	京都系か	口：2/3	1区	
58	磁器 小碗	－	(3.5)	残2.1	外 手描き染付。	肥前系	底：ほぼ完存	1区	18世紀
59	磁器 小碗	－	(3.6)	残2.8	外 発色不良の呉須による草木文。	肥前系	底：1/4	2区	近世
60	磁器 碗	－	－	残2.3	外 手描き染付。	瀬戸・美濃	底：1/4	3区表採	19世紀初頭以降
61	磁器 湯呑碗	(6.7)	－	残4.0	外 染付、瓜文。	肥前系	口：1/4以下	1区	19世紀
62	磁器 湯呑碗	(7.0)	－	残4.9	外 染付、植物文。	肥前系	口：2/3以下	1区	19世紀
63	磁器 八角鉢	－	(8.0)	残3.4	外 染付、山水文。	肥前有田系	底：1/4以下	4区	18世紀以降
64	磁器 湯呑碗	(7.0)	－	残3.5	外 染付、山水文。	肥前系	口1/6以下	3区SI-01	19世紀
65	磁器 端反碗	(10.0)	－	残3.5	内 染付、圏線／外 山水文。	肥前系	口：1/8	3区SI-01	19世紀
66	陶器 徳利	3.0	－	残7.4	外 灰釉、肩部に圏線。	美濃系	口：完存 体：1/5以下	1区	19世紀第1四半期
67	磁器 端反碗	(8.6)	3.6	4.3	内 見込み 手描き染付(家号か)／外 の・丸十文。焼き継ぎ痕あり。	関西系	口～底：1/3	1区	19世紀
68	磁器 端反碗	(8.3)	3.5	4.1	内 木型打込み・濃み、口錆／外木型打込み・濃み、牡丹文。畳付釉剥ぎ。	瀬戸・美濃系	口～体：1/3 底：完存	3区SI-01	19世紀第３四半期
69	磁器 端反碗	(8.6)	(3.0)	3.7	内 見込み コンニャク判印、口錆／外 染付(西洋呉須)。煎茶茶碗。	瀬戸・美濃系	口～底：1/4以下	3区	19世紀第2～4四半期
70	磁器 小丸碗	(8.1)	－	残2.9	内 クロム青磁／外 縦削ぎ・クロム青磁。		口：1/4以下	4区	20世紀初頭
71	磁器 端反碗	(6.6)	－	残3.5	外 染付、鎬文。	瀬戸・美濃系	口：1/4以下	3区	19世紀第2～4四半期
72	磁器 燗徳利	(2.8)	－	残3.5	外 染付、圏線。	瀬戸・美濃系	口：1/4以下	1区	19世紀
73	磁器 端反碗	(6.6)	－	残2.8	外 染付、草文(西洋呉須)。	瀬戸美濃系	口：1/4以下	3区	19世紀第2～4四半期

No.	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	技法・文様等（内面／外面／高台内）	産地等	残存	出土地	備考
74	磁器 皿	－	(6.3)	残1.0	内 コバルト釉手描き染付／外 底釉剥ぎ蛇の目高台。	瀬戸美濃系	底：1/４以下	4区	19世紀第2～4四半期
75	磁器 端反碗	(9.0)	－	残2.5	内 口錆／外 染付(西洋呉須)。煎茶茶碗。No.69と同一個体か。	瀬戸美濃系	口：1/8以下	3区	19世紀第2～4四半期
76	磁器 端反碗	－	(2.9)	残2.2	外 染付(西洋呉須)、圏線・鎬文。煎茶碗。	瀬戸美濃系	底：1/3	3区SI-01	19世紀第2～4四半期
77	磁器 盃	(7.2)	(2.7)	2.8	内 上絵で亀甲文・「大久」銘／外 高台に櫛目文。素地は美濃。記念坏。		口～底：1/4	2区	19世紀後半以降
78	磁器 盃	－	(2.7)	残1.2	内 上絵で、□小學／外 高台に櫛目文。素地は美濃。記念坏。		体～底：1/4以下	3区	19世紀後半以降
79	磁器 丸碗	－	3.0	残2.5	外 畳付釉剥ぎ。	美濃か	底：完存	5区	19世紀後半～20世紀初
80	磁器 盃	－	3.1	残2.2	内 ／外 透明釉、貫入あり。		底：完存	3区	
81	磁器 燗徳利	－	(5.6)	残3.2	外 体部下端圏線。底釉剥ぎ。		底：1/4以下	3区	19世紀
82	磁器 碗	(8.0)	－	残2.8	内 ／外 透明釉。		口：1/4以下	1区	19世紀
83	磁器 不明	－	残3.5	高さ計測	外 型作り、上面菊文、濃み。		隅一部	2区	19世紀
84	磁器 燗徳利	－	(6.8)	残2.9	外 体部灰釉、下端・底部釉剥ぎ。墨書あり(釈読不能)。		底：3/4	1区・3区	18～19世紀
85	磁器 仏飯器	－	(4.8)	残4.0	外 コバルト釉で圏線、底部糸切り。	南東北～北関東か	底：1/4	2区表採	19世紀後半
86	磁器 瓶か	－	(6.0)	残2.9	内 透明釉／外 細筆描きの幾何学文。	肥前系か	底：1/4以下	3区SI-01	近代か
87	陶器 土瓶	－	(8.9)	残1.2	外 無釉、煤付着。		底：1/4以下	1区	19世紀以降
88	磁器 丸碗	(9.9)	－	残3.0	内 圏線吹絵／外 印判手(型紙摺絵)、花文・亀甲花文・うろこ文。		口：1/4以下	2区表土	19世紀後葉～20世紀初
89	陶器 ぺこ燗徳	－	(7.0)	残14.0	外 体部鉄釉、底部ケズリ。		肩：1/2 底：/3	1区SK-07	
90	磁器 碗	－	4.1	残3.2	内 手描き圏線、吹絵、見込み釉剥ぎ／外 印判手(型紙摺絵)。		体～底：1/4以下	5区	19世紀後葉～20世紀初
91	磁器 丸碗	－	(2.8)	残3.3	内 型紙摺絵、松竹梅円文／外 印判手(型紙摺絵)、人物。		体～底：1/4以下	1区	19世紀後葉～20世紀初
92	陶器 皿	12.8	5.3	3.7	内 灰釉のち鉄釉摺絵／外 灰釉、底部トチン痕。京焼模倣。	瀬戸・美濃	口～底：2/3	3区No.1	18世紀前半か
93	陶器 碗	(9.3)	3.7	5.7	内／外 不純物の多い灰釉、貫入あり／外 圏線。煎じ碗(東北地方で多い)。	南東北か	口～底：1/2	4区	
94	陶器 小皿	(8.0)	－	残1.7	内／外 鉄釉。		口：1/6以下	3区	
95	陶器 徳利	－	－	残6.3	外 鉄釉、舟徳利か。		体：1/4以下	1区SK-07	18～19世紀か
96	陶器 土瓶	(6.0)	－	残3.8	内 鉄釉／外 体部沈線の圏線、縦削ぎ、鉄釉。		口：1/4	1区SK-07	
97	陶器 碗	－	4.5	残2.3	内／外 灰釉。	南東北か	底：2/3	2区	
98	陶器 皿	－	(7.1)	残1.3	内 灰釉のち鉄釉摺絵、(草花文)／外 灰釉。京焼模倣。		底：1/4以下	3区P5	18世紀前半か
99	陶器 小皿	－	－	残1.8	内 型打ち、鉄釉／外 布目、口縁部鉄釉。		口：1/4	1区	18～19世紀
100	陶器 半胴甕	(23.8)	－	残23.0	内 灰釉／外 灰釉地、鉄釉の型紙摺絵、草花文。104と同一個体か。		上位1/5	1区・1区SK-07	
101	陶器 皿	－	(7.0)	残1.4	内／外 灰釉。京焼模倣。	瀬戸・美濃	底：1/4以下	3区表採	18世紀
102	陶器 徳利	－	(6.0)	残4.0	外 白濁釉	在地系か	底：1/3以下	1区	
103	陶器 皿	－	－	残2.7	内／外 青緑釉か。	肥前系	底：1/4	3区	
104	陶器 半胴甕	－	(30.0)	残3.8	内 灰釉／外 体部灰釉。100と同一個体か。		底：1/12以下	1区	
105	陶器 鍋(行平	(18.7)	－	残7.8	内／外 灰釉。	在地系	口：1/4以下	4区	
106	陶器 ひょう燭	4.8	2.9	2.9	内 鉄釉／外 底部糸切り。	在地系	完存	3区SI-01	19～20世紀
107	陶器 ひょう燭	4.2	2.8	最大2.7	内 鉄釉／外 底部糸切り。	在地系	ほぼ完存	3区No.1	19～20世紀
108	陶器 ひょう燭	－	3.3	2.6	内 鉄釉／外 底部糸切り。	在地系	底：2/3	3区	19～20世紀
109	陶器 擂鉢	(32.4)	－	残8.4	内 摺目、鉄釉／外 鉄釉。片口あり。	在地系	口：1/8	3区No.1	
110	陶器 擂鉢	－	－	残9.5	内 摺目、鉄釉／外 鉄釉。	瀬戸・美濃	口縁部一部	1区	

No.	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	技法・文様等（内面／外面／高台内）	産地等	残存	出土地	備考
111	陶器 擂鉢	(31.8)	－	残10.7	内 摺目、体部 錆釉口縁部鉄釉／外体部 錆釉口縁部鉄釉。	在地系	口：1/8	3区SI-01	
112	陶器 擂鉢	－	－	残4.3	内 摺目、体部錆釉、口縁部鉄釉／外 体部錆釉、口縁部鉄釉。	在地系	口縁部一部	1区	
113	陶器 擂鉢	－	－	残4.1	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	口縁部一部	1区No.1	
114	陶器 擂鉢	－	－	残3.8	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	口縁部一部	1区	
115	陶器 擂鉢	(30.1)	－	残6.3	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	口：1/8	1区	
116	陶器 擂鉢	－	－	残3.9	内 体部錆釉、口縁部鉄釉、片口あり／外 体部錆釉、口縁部鉄釉。	在地系	口縁部一部	2区	
117	陶器 擂鉢	(30.1)	－	残6.1	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	口：1/8	1区SK-07	
118	陶器 擂鉢	－	－	残3.3	内 錆釉／外 錆釉。	在地系	口縁部一部	3区No.1	
119	陶器 鉢	－	－	残3.5	内 鉄釉／外 鉄釉。	在地系	口縁部一部	3区	
120	陶器 擂鉢	(29.2)	－	残5.2	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	口：1/10	3区	
121	陶器 擂鉢	－	－	残3.1	内 錆釉／外 錆釉。	在地系	口縁部一部	1区No.1	
122	陶器 擂鉢	(28.4)	－	残3.8	内 錆釉／外 錆釉。	在地系	口：1/10	1区	
123	陶器 擂鉢	－	－	残4.1	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	口縁部一部	3区	
124	陶器 擂鉢	－	－	残6.9	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	体部一部	3区	
125	陶器 擂鉢	－	－	残9.0	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	体部一部	4区表採	
126	陶器 擂鉢	－	(7.7)	残7.2	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	底：1/4	3区北	
127	陶器 擂鉢	－	(8.0)	残6.0	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	底：1/4	1区S-7	
128	陶器 擂鉢	－	(11.5)	残4.9	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	底1/4	2区表採	
129	陶器 擂鉢	－	(10.4)	残4.1	内 摺目、錆釉／外 錆釉。	在地系	底：1/2	3区表採	
130	陶器 擂鉢	－	(12.4)	残9.5	内 摺目、錆釉／外 錆釉、底部蛇の目。	在地系	底：2/3	1区	
131	瓦質 内耳土器	(31.0)	－	残5.5	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。	在地系	口：1/12	1区No.1	
132	瓦質 火鉢	(22.9)	－	残6.3	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。	在地系	口：1/12	2区	
133	瓦質 鉢	(38.4)	－	残8.1	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。	在地系	口：1/6	1区	
134	瓦質 内耳土器	(31.0)	－	残3.9	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。	在地系	口：1/12以下	3区No.1	
135	瓦質 内耳土器	(26.4)	－	残7.0	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。	在地系	口：1/8	1区No.1・2	
136	陶器 鉢	復23.0	－	残5.5	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉。	在地系	口：1/8	3区・3区SI-01	
137	陶器 鉢	復23.0	－	残3.1	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉。	在地系	口：1/12	4区	
138	瓦質 火鉢	－	－	残6.1	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。	在地系	体：1/6	3区南	
139	瓦質 火鉢	－	－	残9.7	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ、体部被熱痕あり。	在地系	体部一部	1区	
140	陶器 鉢	－	(13.0)	残9.0	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉、露胎/見込 足付ハマ熔着跡。	在地系	体部一部 底：1/6	3区・3区No.1・3区SI-01	
141	瓦質 内耳土器	－	(17.0)	残4.0	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。	在地系	底：1/8	1区No.1	
142	陶器 甕	－	(18.0)	残20.8	内 ナデ／外 ロクロナデ、錆釉。	信楽	体部一部 底：1/3	3区・3区No.1	
143	陶器 鉢	－	(9.2)	残2.5	内 ロクロナデ・鉄釉／外 露胎。	在地系	底：5/12	3区No.1	
144	土器 灯明具	最大4.5	(3.6)	(2.0)	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。片口に油煙。	在地系	口：1/3 底：1/3	4区	
145	土器 灯明具	4.8	3.0	3.8	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。片口に油煙。	在地系	完存	1区No.1	
146	かわらけ	－	6.0	残1.0	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ、底部回転糸切り。	在地系	底1/2	1区	
147	かわらけ	－	(5.4)	残1.0	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ、底部回転糸切り。	在地系	底：1/4	3区北	

No.	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	技法・文様等（内面／外面／高台内）	産地等	残存	出土地	備考
148	陶器 鉢	(16.0)	－	残4.0	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉。	在地系	口：1/5	1区	
149	陶器 鉢	(12.0)	－	残5.8	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉。	在地系	口：1/12	1区SK-07	
150	陶器 呉器手碗	(11.5)	－	－	内 ロクロナデ・灰釉／外 ロクロナデ・灰釉。	肥前	口～体：1/4	3区南	18世紀か
151	陶器 鉢	(18.0)	－	残6.8	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉、下半露胎。	在地系	口：1/8	3区	
152	陶器 鉢	(12.0)	－	残8.0	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉。	在地系	口：1/4	1区SK-07	
153	陶器 碗	－	－	残4.2	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉。	在地系	体：1/6	3区	
154	陶器 鉢	－	－	残5.0	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉、下半露胎。	在地系	口縁部一部	4区	
155	陶器 香炉	－	(7.0)	残3.0	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ・足貼付け、灰釉。	在地系	底：1/4	3区	
156	陶器 香炉	－	(7.4)	残3.8	内 ロクロナデ・錆釉／外 ロクロナデ・足貼付け、錆釉。	在地系	底：1/3	3区SI-01	
157	陶器 碗	－	(5.0)	残4.0	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉、下半露胎。	在地系	底：4/5	4区	
158	陶器 呉器手碗	－	5.8	－	内 ロクロナデ・灰釉／外 ロクロナデ・灰釉。	在地系	体部一部 底：完存	1区	17世紀
159	陶器 碗	－	(4.6)	残3.4	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉、下半露胎。	在地系	体部一部 底：1/3	4区	
160	陶器 鉢	－	10.0	残3.1	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉、底部露胎/見込 足付ハマ熔着跡。	在地系	底：9/10	4区表採	
161	陶器 鉢	－	(10.4)	残3.2	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉、下端露胎。	在地系	底：1/8	1区	
162	陶器 碗	－	(4.0)	残2.3	内 ロクロナデ・灰釉／外 ロクロナデ・灰釉、下端露胎。	在地系	体部一部 底：1/4	5区	
163	陶器 鉢	－	(6.0)	残2.5	内 ロクロナデ・錆釉／外 ロクロナデ・錆釉。	在地系	体部一部 底：1/4	3区表採	
164	陶器 鉢	－	－	－	内 ロクロナデ・鉄釉／外 ロクロナデ・鉄釉。	在地系	口縁部一部	4区	
165	瓦質 内耳土器	(46.0)	(38.0)	残7.5	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。	在地系	口：1/6 底：1/6	1区No.1	
166	瓦質 内耳土鍋	(38.0)	(33.0)	残5.7	内 ロクロナデ／外 ロクロナデ。	在地系	口：2/3 底：一部	1区・1区SK-07・1区SK-06	

第２表　金属製品観察表

No.	材質	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	形　態　等	残　存	出土位置
1	鉄	釘	148.0	3.0	2.0	28.29	短軸断面円形、現代の釘か。	下端欠損	3区
2	鉄	釘	88.5	20.5	10.5	32.56	頭の形態不明、短軸断面方形。	下端欠損	1区SK-07 No.3
3	鉄	釘	78.0	3.0	3.0	5.87	頭は両側縁・前に出る。断面長方形。	下端欠損	3区
4	鉄	釘２本	65.0	4.0	2.5	9.80	Ｔ字形、頭の釘が錆着き。断面方形。	長釘下端欠	1区 SK-07
5	鉄	釘	60.0	5.0	4.0	9.39	頭は両側縁に突出、短軸断面方形。	下端欠損	4区
6	鉄	釘	45.0	22.5	6.5	14.04	頭は両側縁にのばし折り。断面方形。	下端欠損	1区
7	鉄	釘	58.5	9.5	6.0	3.79	頭はのばして折り巻く。断面方形。	下端欠損	1区
8	鉄	釘	38.0	9.0	4.5	3.64	頭は両側縁に突出、折り曲げなし。	下端欠損	1区 SK-07
9	鉄	釘	37.0	12.0	4.0	4.91	頭は両側縁・前にのばし折り。	下端欠損	3区No.1
10	鉄	釘	28.5	10.5	3.5	2.78	頭は両側・前にのばし折り。	下端欠損	1区 SK-07
11	鉄	釘	36.0	3.0	3.0	2.67	頭は側縁・前に突出。	ほぼ完存	3区
12	鉄	釘	48.0	8.0	1.7	2.55	頭を薄くして折る。	下端欠損	1区 SK-07
13	鉄	釘	28.5	9.5	4.0	1.42	頭は両側縁・前にのばし折り。	下端欠損	1区
14	鉄	釘	34.5	5.5	1.0	1.16	頭は少し薄くして折る。	ほぼ完存	1区 SK-07
15	鉄	釘	36.0	8.5	3.5	2.80	頭は薄くして幅広に折る。	下端欠損	1区 SK-07
16	鉄	釘	53.0	3.0	3.0	6.05	頭は前に折り曲げ、短軸断面方形。	ほぼ完存	4区
17	鉄	釘	50.0	2.0	4.5	1.84	頭は両側縁・前に出る。断面方形。	完存	4区
18	鉄	釘	30.0	2.0	2.0	2.50	頭は側縁に突出。	完存	3区
19	鉄	釘か	52.0	3.0	2.0	8.15	短軸断面方形で、太さ一定。	両端欠損	4区
20	鉄	釘	40.0	3.0	3.0	4.54	頭は両側縁に突出、短軸断面方形。	下端欠損	4区
21	鉄	釘	45.0	3.0	3.0	4.82	頭は両側縁・前に出る。断面方形。	下端欠損	4区

No.	材質	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	形　態　等	残　存	出土位置
22	鉄	釘	38.0	2.5	2.5	2.83	頭は前に折り曲げ、短軸断面方形。	下端欠損	4区
23	鉄	釘	38.0	3.0	3.0	8.69	頭は前に折り曲げ、短軸断面方形。	下端欠損	4区
24	鉄	釘	39.0	3.0	4.0	2.84	短軸断面方形で、頭は斜め。	下端欠損	1区 SK-06
25	鉄	釘	26.0	3.0	3.0	2.30	頭は両側縁・前に出る。断面方形。	下端欠損	4区
26	鉄	釘	25.0	8.5	1.8	1.70	頭は両側縁・前にのばし折り。	下端欠損	2区
27	鉄	釘	25.5	9.5	4.5	2.31	頭は両側縁・前にのばし折り。	下端欠損	1区
28	鉄	釘	22.5	3.0	2.5	1.22	頭は両側・前にのばし折り。	下端欠損	1区
29	鉄	釘	34.0	3.0	3.0	2.51	頭は両側縁・前に出る。断面方形。	下端欠損	4区
30	鉄	釘	43.0	4.0	4.0	6.92	頭は突出か。短軸断面方形。	下端欠損	4区
31	鉄	釘	29.0	8.0	4.0	1.17	頭は両側縁・前にのばし折り。	下端欠損	1区
32	鉄	釘	21.0	7.0	3.5	0.59	頭は薄くてＬ字に折る。	下端欠損	1区SK-06 No.2
33	鉄	釘か	16.0	3.0	3.0	1.65	短軸断面方形か。	両端欠損	3区
34	鉄	小刀	33.5	16.0	5.5	4.24	断面長方形の茎で、木質残る。	両端欠損	1区SK-07 No.2
35	鉄	釘と鎌か	51.0	31.0	3.0	11.81	刃部の利器と薄い頭を折る釘錆着き。	利器一部存	1区
36	鉄	釘	33.5	1.8	1.8	2.68	頭は両側縁・前にのばし折り。	下端欠損	3区 SI-01
37	鉄	釘	28.5	5.5	3.5	0.74	頭は前のみ折る小型釘。	完存	1区
38	鉄	釘	20.0	5.0	5.0	2.20	頭は両側縁・前に出る。断面方形。	下端欠損	4区
39	鉄	釘	33.0	5.0	5.0	5.71	足はし字状に曲がる。	完存	4区
40	鉄	釘	4.5	8.0	4.0	8.17	短軸断面長方形、上端は斜め。	両端欠損か	3区
41	鉄	釘	20.0	4.0	4.0	4.93	頭が両側縁に突出、短軸断面方形。	下端欠損	4区
42	鉄	不明製品	15.0	5.0	5.0	5.03	頭は円形、鋳造品。	下端欠損	4区
43	鉄	釘	20.0	3.0	3.0	6.17	頭は突出、短軸断面方形。	下端欠損	4区
44	鉄	釘	27.0	4.0	4.0	0.65	頭は前折り側縁に突出、断面方形。	下端欠損	4区
45	鉄	釘	27.0	5.0	3.0	1.69	頭は両側縁・前にのばし折り。	下端欠損	3区 SI-01
46	鉄	釘か	1.9	4.0	4.0	2.35	頭は前に折り曲げ、短軸断面方形。	下端欠損	4区
47	鉄	釘	26.0	3.0	3.0	2.51	頭は一方に突出、短軸断面方形。	一方端欠損	3区
48	鉄	釘	20.0	5.5	2.5	1.01	短軸断面長方形、頭は前に折る。	下端欠損	3区
49	鉄	釘	20.0	2.0	2.0	0.86	頭は突出か、短軸断面方形。	下端欠損	4区
50	鉄	釘	12.0	1.5	1.5	1.13	頭は側縁に突出。	下端欠損	3区
51	鉄	釘	29.0	10.5	3.5	1.59	頭は両側に広がるか。	両端欠損	1区
52	鉄	釘	30.0	2.0	2.0	3.35	頭は前に折り曲げ、短軸断面方形。	下端欠損	4区
53	鉄	釘	28.0	3.0	3.0	2.89	頭は前に折り曲げ、短軸断面方形。	下端欠損	4区
54	鉄	釘	20.0	5.0	5.0	4.43	頭は側縁に突出する。	下端欠損	4区
55	鉄	釘か	23.0	4.0	4.0	4.90	短軸断面方形。	両端欠損	3区
56	鉄	釘か	33.0	3.0	3.0	3.92	非鉄製品の可能性もある。	両端欠損	4区
57	鉄	不明製品	22.0	4.5	2.0	1.47	短軸断面隅丸方形か。	両端欠損	3区
58	鉄	釘か	30.0	3.0	3.0	7.08	断面方形、太さは一定。	両端欠損	4区
59	鉄	鉄滓	21.0	5.0	5.0	9.09	小型の鍛冶滓か。	完存	4区
60	鉄	不明製品	29.0	6.0	5.0	7.16	鋳造品。	両端欠損	4区
61	鉄	釘か	24.0	3.0	3.0	3.15	短軸断面方形。	両端欠損	4区
62	鉄	不明製品	23.0	4.0	2.0	2.30	短軸断面長方形、わずかに彎曲。	両端欠損	4区
63	鉄	釘か	36.0	4.0	2.0	4.04	断面長方形で、直線状にのびる。	両端欠損	4区
64	鉄	釘か	22.0	5.0	3.0	1.18	短軸断面長方形。	両端欠損	4区
65	鉄	不明製品	21.0	6.5	5.0	2.39	短軸断面方形。	両端欠損	4区
66	鉄	釘	19.5	3.0	3.0	2.41	先端が細くなる。短軸断面方形。	下端欠損	3区
67	鉄	釘か	20.0	5.0	5.0	3.63	短軸断面方形。	両端欠損	3区
68	鉄	釘か	40.0	4.0	2.0	2.38	短軸断面長方形、下方が少し細い。	両端欠損	3区
69	鉄	釘か	28.0	4.0	4.0	2.22	短軸断面方形。	両端欠損	4区
70	鉄	釘か	24.0	4.0	4.0	0.99	短軸断面方形、一方が細くなる。	両端欠損	4区
71	鉄	釘か	38.0	4.0	4.0	8.60	短軸断面方形。	両端欠損	3区
72	鉄	釘	42.0	3.0	3.0	3.37	短軸断面隅丸方形か。	両端欠損	3区
73	鉄	釘	46.0	3.0	3.0	2.62	一方端が少し細くなる。	一方端欠損	3区

No.	材質	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	形　態　等	残　存	出土位置
74	鉄	釘か	33.0	3.0	3.0	3.60	短軸断面方形。	両端欠損	3区
75	鉄	釘か	40.0	4.0	2.0	3.41	短軸断面方形。	両端欠損	3区
76	鉄	釘	30.0	3.0	3.0	2.67	頭は一方に突出、短軸断面方形。	一方端欠損	3区
77	鉄	釘か	30.0	2.0	2.0	1.31	短軸断面方形か。	両端欠損	3区
78	鉄	釘か	22.0	2.5	2.5	1.29	短軸断面方形、少し曲がる。	両端欠損	4区
79	鉄	環状製品	30.0	3.0	3.0	3.14	短軸断面方形、環状に曲げる。	両端欠損	4区
80	鉄	釘	15.0	2.5	2.5	1.20	頭は側縁に突出。	下端欠損	3区
81	鉄	釘	35.0	2.0	2.0	3.55	短軸断面方形、下方が少し細い。	両端欠損	4区
82	鉄	釘か	33.0	2.0	2.0	2.40	短軸断面方形。	両端欠損	4区
83	鉄	不明製品	43.0	13.0	7.0	5.55	断面円形か、鉄板の蝶番付きか。	一部存	4区
84	鉄	釘か	20.0	2.0	2.0	1.17	短軸断面方形か。	両端欠損	3区
85	鉄	釘	32.0	3.5	4.5	2.53	断面方形で、弧状に曲がる。	両端欠損	1区
86	鉄	釘	22.0	3.5	2.5	0.81	短軸断面方形。	両端欠損	1区 SK-07
87	鉄	釘か	45.0	6.0	6.0	6.69	短軸断面丸で、棒状。	両端欠損	1区
88	鉄	釘	23.0	2.5	3.0	1.24	短軸断面方形。	両端欠損	1区SK-07 No.3
89	鉄	釘	36.0	3.5	4.5	1.64	短軸断面方形。下部曲がる。	上端欠損	1区
90	鉄	釘	23.5	2.8	3.5	0.80	短軸断面方形。	両端欠損	1区
91	鉄	釘	30.0	3.2	5.0	1.30	短軸断面長方形、下方が細い。	上端欠損	3区
92	鉄	釘	32.0	4.0	4.0	1.28	頭は斜め、断面方形。断面方形か。	完存	4区
93	鉄	釘	27.0	4.0	4.0	1.18	頭は突出か。	上端欠損	4区
94	鉄	釘	25.0	3.5	3.0	1.20	短軸断面方形、一方が細くなる。	両端欠損	4区
95	鉄	釘	52.0	5.5	4.0	4.05	上端平坦、短軸断面方形。	ほぼ完存	3区 SI-01
96	鉄	釘	42.0	7.0	7.0	6.14	下方は細くなる。短軸断面方形。	両端欠損	4区
97	鉄	釘か鎹	26.0	2.0	2.0	0.51	遺存部はＬ字に折れ、断面方形。	一方端欠損	4区
98	鉄	環状製品	28.0	3.0	3.0	3.69	短軸断面方形、環状に曲げる。	両端欠損	4区
99	鉄	釘	40.0	3.0	3.0	3.47	頭は一方に突出、短軸断面方形。	一方端欠損	3区
100	鉄	鉤状品	25.0	6.0	2.0	3.21	先端が尖っている釣り針か。	上端欠損	4区
101	鉄	釘	35.0	9.5	6.5	4.90	一方端は幅広になる。断面隅丸方形。	両端欠損	1区
102	鉄	不明製品	86.0	6.0	4.0	11.54	上端が匙状に曲がる。断面長方形。	一方端欠損	3区
103	鉄	不明製品	45.0	2.0	2.0	5.57	断面方形で環状に曲がる。	一部存	4区
104	鉄	釘か	13.0	3.0	3.0	1.82	短軸断面方形か。	両端欠損	4区
105	鉄	不明製品	20.0	8.0	3.0	2.60	短軸断面長楕円形。	両端欠損	4区
106	鉄	不明製品	43.0	10.5	4.0	7.90	短軸断面長方形で長軸少し反り。	一方端欠か	1区 SK-07
107	鉄	不明製品	16.0	2.0	2.0	3.95	塊状か、形状不明。	一部存	4区
108	鉄	釘?	59.5	2.5	2.5	10.12	しの字形で先端は細く尖る。	上端欠損	3区 P5
109	鉄	不明製品	18.0	9.0	3.0	2.62	短軸断面長方形。	一端欠損か	3区
110	鉄	鍋か	24.0	32.0	5.0	15.34	短軸断面くの字に折れる。長軸には緩やかな弧状。鋳造か。	一部存	4区
111	鉄	Ｕ字形製品	56.0	4.5	6.5	16.73	短軸断面板状、Ｕ字形に曲げる。	長軸両端欠	1区 SK-07
112	鉄	不明製品	49.0	17.0	5.5	16.04	Ｔ字形をし、断面長方形。	長軸端欠	1区 SK-07
113	鉄	鉤状品	45.0	8.0	8.0	15.47	しの字形で、断面やや丸いか。	両端欠損	3区
114	鉄	刀子	17.0	51.5	1.5	3.89	関は棟側のみ、刃部平造り。	茎と関	1区SK-07 No.3
115	鉄	刀子	33.0	11.0	3.0	5.47	丸棟か。	一部存	4区
116	鉄	不明	16.0	20.0	2.0	1.95	長短軸反りなし。146と同一片。	一部存	1区SK-07 No.2
117	鉄	不明製品	31.0	12.0	3.0	6.63	平面台形状、短軸断面長方形。	一部存	4区
118	鉄	不明板状品	29.0	16.0	2.0	2.15	長短軸反りなし。146と同一片。	一部存	1区SK-07 No.2
119	鉄	不明製品	62.0	2.0	4.0	17.33	一辺は刃部状、一辺は角棟状。	一方端欠損	3区
120	鉄	板状品	35.0	12.0	3.0	5.39	側縁一辺は直線状、他は不定形。	一部存	4区
121	鉄	不明	17.0	17.5	3.5	1.67	長短軸反りなし。146と同一片。	一部存	1区SK-07 No.2
122	鉄	不明板状品	34.0	28.0	2.8	3.97	側縁隅遺存、平坦。	一部存	1区 SK-07
123	鉄	不明製品	18.5	9.5	2.5	2.54	錆着くが、板状。	一部存	1区

No.	材質	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	形　態　等	残　存	出土位置
124	鉄	不明板状品	31.5	15.0	2.5	1.93	側縁遺存しない、平坦。	一部存	1区 SK-07
125	鉄	不明板状品	22.0	51.5	3.5	11.48	一側縁のみ遺存、断面平坦。	一部存	1区 SK-07
126	鉄	不明板状品	14.0	16.5	1.0	0.77	長短軸反りなし。146と同一片。	一部存	1区SK-07 No.2
127	鉄	不明板状品	16.0	23.5	1.5	2.14	側縁欠損、偏平。	一部存	1区
128	鉄	不明板状品	28.5	32.0	4.0	4.11	偏平で、側縁一辺遺存。	側縁残存	2区
129	鉄	不明板状品	14.5	26.5	1.2	14.33	長軸断面弧状、鍛え合わせ。	一部存	2区
130	鉄	不明	16.5	20.5	0.3	1.52	平坦な板状。	残存不明	1区 SK-07
131	鉄	不明板状品	27.5	36.5	3.5	6.32	長短軸反りなし。146と同一片。	一部存	1区SK-07 No.2
132	鉄	不明板状品	18.0	27.0	4.0	2.41	長短軸反りなし。146と同一片。	一部存	1区SK-07 No.2
133	鉄	板状製品	18.0	14.0	1.0	0.61	側面は全て破面。	一部存	1区
134	鉄	板状品	37.0	19.0	2.0	2.56	鉄板の切れ端か。	一部存	4区
135	鉄	板状品	26.0	13.0	2.0	4.99	鉄板の切れ端か。	一部存	4区
136	鉄	板状品	32.0	33.0	2.5	5.07	縁は鈍角に折れ、長短軸断面平坦。	一部存	1区SK-07 No.3
137	鉄	不明長方形板状品	57.0	14.0	2.5	16.95	板状部は偏平、別な品が付着。	一部存	1区 SK-07
138	鉄	不明品	51.5	18.5	6.0	9.57	長軸断面弧状の板状品。	一部存	1区
139	鉄	釘か	39.0	15.0	6.0	6.62	断面方形で、２本の釘が錆着か。	一部存	4区
140	鉄	不明板状品	50.0	12.0	1.5	4.76	長軸一方端に捻じれあり。	両端欠損か	3区
141	鉄	不明棒状品	67.0	12.0	8.0	23.61	断面台形、下位で３面に段差あり。	両端欠損	3区
142	鉄	板状品と利器	53.0	54.0	2.5	25.87	板状品は偏平、縁は一辺残る。利器は２枚合わせ鍛えの刃部。	縁一部　刃部一部	1区SK-07 No.3
143	鉄	長方形板状品	88.0	60.5	4.0	56.27	長軸断面平坦、平面やや台形状。	一方端欠損	1区SK-07 No.3
144	鉄	不明品	20.0	15.0	3.0	1.80	鉄製品の可能性あり。	一部存	4区
145	鉄	不明板状品	61.0	149.5	3.0	127.33	長軸のみがわずかに反る。	長軸中位存	1区SK-07 No.2
146	鉄	鉤状品	18.0	4.0	2.0	3.03	Ｃ字状で、先端が細くなる。	一方端欠損	4区
147	鉄	タガネか	196.0	17.0	9.5	123.13	下端は台形状、上端は４面に膨らむ。	完存か	1区
148	鉄	不明製品	22.0	32.0	1.0	3.87	椀形に窪み、両端を折る。	完存	3区
149	鉄	鉤状品	22.0	9.0	2.0	3.16	長軸くの字、先端刃部なし。	一方端欠損	4区
150	鉄	鉄塊	11.0	16.0	13.0	5.14	鉄滓に鉄塊付着。	完存	4区
151	鉄	釘か	40.0	9.0	2.0	5.80	２本の釘か１本のものか不明。	一方端欠損	4区
152	鉄	鉤状品	20.0	5.0	4.5	5.44	鉤状に曲げる。短軸断面長方形で、柄の責め金か。	一部欠	4区
153	鉄	不明金具	23.5	17.5	5.0	8.05	板状金具を環状品に付ける。	板状品欠	1区
154	鉄	留金具	36.0	4.0	3.5	3.69	頭は環状、足細り、別物付着。	完存	1区 SK-07
155	鉄	不明製品	40.0	20.5	1.5	12.59	棒状品と環状品が錆て付着。	一部存	1区 SK-07
156	鉄	不明製品	60.0	5.0	5.0	8.57	弧状の棒に翼状の錆付着	一部存	注記不明
157	鉄	不明	50.4	24.5	11.0	25.64	図の左端巻き、他は板状。	ほぼ完存	1区 S-6
158	鉄	吊り金具か	41.5	37.5	8.5	20.74	コの字形で、環と両端に孔あり。	完形	3区 P5
159	鉄	不明円筒品	17.0	17.0	9.0	14.24	上下面は皿状に窪む。	完形か	3区 SI-01
160	鉄	火打ち石	16.0	52.5	3.5	11.95	上の両側はのばして折る。下端幅広。	ほぼ完存	1区
161	鉄	金鎚	34.0	20.0	18.0	73.67	長軸側面に柄の孔、打面外縁は４側面とも凸帯状。	完存	3区
162	鉄	不明製品	10.0	75.5	25.0	22.89	平板をＵ字形に曲げ、先端は外反り。	残存不明	1区
163	鉄	釘か	18.0	2.0	2.0	5.90	断面方形。	両端欠損	4区
164	鉄	やす	94.0	36.0	2.5	26.63	刺部断面円形、基部は長方形。	両端欠損	3区 SI-01
165	鉄	取っ手の輪	78.0	74.0	釘129	249.70	環は断面楕円形、釘は先細。	完存	1区SK-06 No.3
166	銅	A煙管雁首の火皿部	54.0	14.5	14.5	A3.83	合わせ目は側面。	一部存	1区

No.	材質	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	形　態　等	残　存	出土位置
167	銅	B煙管雁首の基部	52.0	10.0	9.0	4.20	竹管遺存。	一部存	1区
168	鉄	和鋏	158.0	15.0	7.0	24.81	刃部断面長三角形、片面丸味あり。	半分遺存	3区
169	銅	煙管雁首	54.0	14.5	1.3	6.57	合わせ目は側面。	雁首完存	3区
170	銅	煙管火皿部	15.0	－	1.0	1.70	合わせ目不明瞭。	一部存	3区
171	銅	煙管吸い口	63.0	10.2	1.3	5.37	竹管遺存。	吸い口完存	3区
172	銅	B吊り手の鋲	4.5	4.5	5.0	B0.37	笠鋲は偏平。	完存	
173	銅	A鍋吊り手	200.0	11.0	18.0	A23.64	板状で、曲がる。端に孔。	ほぼ完存	1区
174	銅	A煙管吸い口か	15.0	9.0	1.0	A0.58	合わせ目不明瞭。	一部存	3区
175	銅	B煙管吸い口か	16.0	5.0	3.0	B0.53	吸い口潰れる。竹管遺存。	一部存	
176	銅	毛抜き	57.0	6.0	1.4	5.53	偏平な銅板折り曲げ。	先端欠	3区
177	銅	環	16.0	16.0	1.5	0.69	繋ぎ目１か所、断面円形。	完存	3区
178	銅	ボタン状製品	20.0	20.0	3.5	2.45	中央に孔、周縁は折り曲げ。	完存か	3区
179	銅	かんざし	68.0	54.0	20.0	3.21	わずかに彎曲。	完存	2区

第３表　銅・土製品観察表

No.	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	技法・文様等（内面／外面／高台内）	産地等	残存	出土地	備考
1	銅製品 大黒天	－	－	3.4	型造り、正面・背面の型抜き土を合わせて、接合面を削る。	在地系	完存	1区	
2	土製品 大黒天	－	－	6.1	型造り、正面・背面の型抜き土を合わせて、接合面を削る。	在地系	ほぼ完存	1区S-7	
3	土製品 鼠	－	－	3.4	型造り、正面・背面の型抜き土を合わせて、接合面を削るが、剥離して一方欠損。	在地系	体：1/2	1区S-7	
4	土製品 獅子	－	－	残4.4	型造り、口の部分に双孔、裏面に遺存する器表面があり、火鉢か。	在地系	取手一部	2区	

第４表　石製品観察表

No.	器　種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	形　態　等	残　存	出土位置
1	不明 石製品	18.0	11.2	10.3	1.4kg	上面は整形の凹凸あり。裏面は平面楕円形の足で、接地面は平滑。石材は安山岩。	一部存	3区SI-01
2	石臼	10.0	5.5	11.5	1.4kg	上縁と側面部は、３段に割り取っている。下面と供給口は黒色になっている。石材はデイサイト。	一部存	3区No.1
3	石臼	18.8	7.5	3.0	413.06	下面の目の間隔は約1.5cmで、被熱痕あり。石材はデイサイト。	周縁一部	
4	石臼	径32.2		13.0	6.9kg	供給口が僅かに遺存。上縁は約1/4残る。側面に方形孔２孔と縦・横方向の整形痕あり。下面に芯棒受けと断面皿状の溝。石材は安山岩。	1/2遺存	2区
5	石臼	径27.0		14.0	7.15kg	臼の槃、側面に対で平面三角形の孔あり、足は３ヶ所。表面は暗灰色を呈し、煤付着か。破面は橙色の被熱色。石材は安山岩。	1/2遺存	3区SI-01
6	砥石	13.8	4.0	2.5	210.37	表面全面が砥面であるが、図中下面と長軸１面の使用頻度が高い。砥ぎ方向は長軸斜めが多く、側面に製作時の条痕がある。側面１面に短軸方向への断面皿形の砥ぎ痕あり。石材は玢岩、中砥石。	完存	1区ＳＩ-07
7	砥石	8.5	3.6	4.0	214.28	砥面は４面であるが、１面のみ使用頻度が高い。側面には製作時の条痕がある。主に長軸方向に砥ぐ。石材は玢岩、中砥石。	長軸両端欠損	1区ＳＩ-07
8	砥石	9.2	4.0	3.15	169.81	砥面は４面であるが、１面のみ使用頻度が高く、１側面は破面。長軸方向・斜方向に砥ぐ。１面には連続の斜方段あり。石材は凝灰質泥岩か、中砥。	長軸両端欠損	1区ＳＩ-07
9	不明石	10.2	3.95	1.9	112.19	短軸断面皿状で、表裏面に長軸方向の平行条線がある。凸面は平滑になっている。石材は片岩か。石英沿岸、荒砥。	長軸両端欠損	1区
10	砥石	8.0	3.0	1.8	52.37	砥面は３面で、図中中央の面は下端も幅狭く砥いでいる。石材は玢岩、中砥。	ほぼ完存	4区
11	砥石	11.75	3.75	4.4	342.35	砥面は長軸３面で、１面の使用頻度が高く、１面に整形痕がある。斜方向・長軸方向に砥ぎ痕あり。石材は紅柱石ホルンフェルス、仕上げ砥か。	長軸一方端欠損	3区
12	砥石	8.0	3.7	1.4	64.74	砥面は長軸４面で、各面使用頻度高い。側面の破面も整形。偏平な面は主に斜方向、側面は長軸方向などに砥ぐ。石材は点紋ホルンフェルス、点紋はキンセイ石か、仕上げ砥か。	長軸一方端欠損	3区ＳＫ-05

第５表　寛永通宝観察表

No.	区	遺構名	銭径(縦)(mm)	銭径(横)(mm)	内径(縦)(mm)	内径(横)(mm)	銭厚(mm)	量 札含	量目(g)	残存状態	備考
1	4		28.33	28.44	21.27	21.28	1.20	4.68	4.49	完形	
2	4		28.51	28.61	21.30	21.20	1.30	4.82	4.63	完形	
3	1	S-07	28.69	28.07残	21.33	21.35残	1.24	3.38	3.19	一部欠	
4	1		25,36	25.32	20.40	20.16	1.20	3.00	2.81	完形	
5	1		25.43	25.39	20.17	20.02	1.15	2.87	2.68	完形	
6	1		25.63	25.79	20.37	20.20	1.24	2.83	2.64	完形	
7	3		25.62	25.64	20.40	20.31	1.46	4.02	3.83	完形	
8	3	P5	25.64	25.64	20.24	20.16	1.41	3.68	3.49	完形	
9	4	No.1下	25.31	25.20	20.20	19.97	1.45	4.14	3.95	完形	
10	4	No.1下	25.45	25.50	20.05	20.00	1.37	3.81	3.62	完形	
11	4	No.1下	25.74	25.62	20.41	20.45	1.26	2.87	2.68	完形	
12	4	No.1下	25.41	25.45	20.39	20.33	1.44	3.63	3.44	完形	
13	4	No.1下	26.08	25.48	20.38	20.17	1.52	4.37	4.18	完形	
14	4	No.1下	25.25	25.15	20.30	20.37	1.31	2.70	2.51	完形	
15	4	No.1	25.30	25.29	20.57	20.41	1.35	2.90	2.71	完形	
16	4	No.1	25.15	25.20	20.13	20.10	1.31	3.13	2.94	完形	
17	4	No.1下	25.56	25.56	20.42	20.38	1.42	4.06	3.87	完形	
18	4	No.1下	25.21	25.22	20.11	20.33	1.12	2.78	2.59	完形	
19	4	No.1下	25.66	25.56	20.72	20.21	1.19	3.41	3.22	完形	
20	4	No.1下	25.25	25.31	19.90	19.90	1.31	3.47	3.28	完形	
21	3		25.65	25.45	20.12	20.16	1.74	3.08	2.89	完形	
22	4	No.1下	24.95	25.24	19.79	19.89	1.21	3.36	3.17	完形	
23	4	No.1下	25.36	25.37	19.79	19.74	1.37	3.64	3.45	完形	
24	4	No.1下	25.55	25.49	19.92	19.96	1.50	3.94	3.75	完形	
25	4	No.1下	25.60	25.37	19.71	20.05	1.23	3.80	3.61	完形	
26	4	No.1下	25.35	25.46	20.23	20.23	1.40	4.02	3.83	完形	
27	4	No.1下	25.44	25.57	20.36	20.14	1.39	3.89	3.70	完形	
28	4	No.1下	25.11	25.13	19.81	19.89	1.44	2.98	2.79	完形	
29	4	No.1下	24.98	24.91	20.40	20.50	1.32	2.99	2.80	完形	
30	4	No.1下	23.69	23.87	18.72	18.79	1.17	3.32	3.13	完形	裏面は付着していたスタンプ模様
31	3	SI-01	24.39	24.47	19.90	19.72	1.08	3.30	3.11	完形	
32	2	S-4No.1	24.94	24.81	19.70	19.62	1.36	3.50	3.31	完形	
33	3		24.53	24.55	19.65	19.91	1.28	3.83	3.64	完形	
34	3	SI-01	24.63	24.46	20.04	19.92	1.59	3.78	3.59	完形	
35	3	SI-01	25.15	25.22	20.02	19.82	1.34	4.01	3.82	完形	
36	3		23.52	23.61	18.78	19.01	0.93	2.05	1.86	完形	
37	4		24.82	24.90	19.76	19.65	1.37	3.54	3.35	完形	
38	3		24.99	24.78	19.88	19.75	1.39	3.86	3.67	完形	
39	3		23.85	23.84	18.32	18.73	1.40	3.21	3.02	完形	
40	4	No.1下	23.32	23.29	19.09	18.97	1.29	2.97	2.78	完形	
41	1	S-07	24.63	24.62	19.93	19.85	1.25	3.28	3.09	完形	
42	4	No.1下	23.65	23.85	19.07	19.04	0.97	2.59	2.40	完形	
43	4	No.1下	24.28	24.54	19.59	19.58	1.03	2.61	2.42	完形	
44	4	No.1	25.25	25.24	20.24	20.44	1.32	3.03	2.84	完形	
45	4	No.1下	25.15	25.42	20.35	20.24	1.36	3.79	3.60	完形	
46	4	No.1	24.33	24.26	19.96	19.97	1.24	3.08	2.89	完形	
47	4	No.1下	25.47	25.37	19.61	19.63	1.10	2.76	2.57	完形	
48	4	No.1下	25.49	25.35	19.97	20.01	1.24	3.34	3.15	完形	
49	4	No.1下	23.50	23.60	19.02	18.94	1.32	3.69	3.50	完形	
50	4	No.1	24.62	24.77	20.18	19.84	1.27	2.42	2.23	完形	
51	4	No.1下	23.40	23.52	18.63	18.63	1.31	2.85	2.66	完形	
52	4	No.1下	23.22	23.10	19.17	19.31	0.93	2.57	2.38	完形	
53	4	No.1下	25.51	25.36	20.31	20.22	1.36	3.13	2.94	完形	
54	4	No.1下	23.87	24.01	19.59	19.32	1.17	2.98	2.79	完形	
55	3		25.01	24.99	19.63	19.68	1.12	3.68	3.49	完形	
56	4	No.1下	22.91	23.06	18.80	19.04	1.12	2.83	2.64	完形	
57	4	No.1下	23.34	23.42	19.04	19.02	1.22	3.17	2.98	完形	
58	4	No.1下	24.50	24.50	19.60	19.70	1.30	3.78	3.59	完形	
59	3		22.47	22.50	18.77	18.64	1.19	2.77	2.58	完形	
60	4	No.1下	23.11	22.97	18.91	19.90	0.92	2.25	2.06	完形	
61	4	No.1	23.24	23.15	18.87	19.09	1.14	2.79	2.60	完形	
62	4	No.1下	22.28	23.27	19.18	19.15	1.10	2.62	2.43	完形	
63	4	No.1下	23.20	23.11	18.97	18.74	1.08	2.86	2.67	完形	
64	4	No.1下	25.39	25.38	19.59	19.56	1.30	3.73	3.54	完形	
65	4	No.1下	25.03	25.00	19.76	19.78	1.19	3.50	3.31	完形	
66	4	No.1下	24.05	23.95	19.92	19.71	1.38	3.86	3.67	完形	
67	4	No.1下	25.29	25.26	20.12	19.99	1.41	3.70	3.51	完形	
68	4	No.1下	24.56	24.63	19.56	19.79	1.46	3.96	3.77	完形	
69	4	No.1下	23.41	23.49	19.80	19.72	1.26	3.69	3.50	完形	
70	4	No.1下	24.77	25.04	19.49	19.45	1.25	3.79	3.60	完形	
71	4	No.1下	25.18	25.16	20.23	20.19	0.99	2.77	2.58	完形	
72	4	No.1下	23.89	23.62	19.04	18.64	1.04	2.55	2.36	完形	
73	4	No.1下	23.70	23.88	19.20	18.99	1.31	3.19	3.00	完形	
74	1		23.12	23.04	18.45	18.19	1.31	2.51	2.32	完形	
75	4	No.1下	23.21	23.32	18.99	18.86	1.11	2.72	2.53	完形	
76	4	No.1下	23.18	23.43	18.87	18.63	0.97	2.72	2.53	完形	
77	4	No.1下	23.37	23.38	18.84	18.72	1.17	3.38	3.19	完形	
78	4	No.1下	24.32	24.42	18.82	18.99	1.28	3.39	3.20	完形	
79	4	No.1下	23.42	23.13	19.00	18.76	1.19	3.21	3.02	完形	
80	4	No.1下	24.55	24.81	20.05	19.91	1.30	4.00	3.81	完形	
81	4	No.1	23.82	23.82	18.77	19.26	1.22	2.95	2.76	完形	
82	4	No.1下	23.11	23.15	18.64	18.79	1.24	3.05	2.86	完形	
83	4	No.1下	23.61	23.39	18.83	19.02	1.07	2.93	2.74	完形	
84	4	No.1下	23.33	23.27	18.63	18.77	1.36	3.07	2.88	完形	
85	4	No.1下	23.69	23.75	18.95	18.82	1.29	3.17	2.98	完形	
86	4	No.1下	23.12	23.11	18.59	18.54	1.07	2.58	2.39	完形	
87	4	No.1下	23.16	23.44	18.69	18.73	1.42	3.06	2.87	完形	
88	4	No.1下	23.04	23.33	18.54	18.57	1.18	3.04	2.85	完形	
89	4	No.1下	22.90	22.89	19.20	19.54	1.13	3.00	2.81	完形	
90	4	No.1下	23.45	23.41	18.90	18.73	1.23	3.40	3.21	完形	
91	4	No.1下	23.39	23.31	18.91	18.94	1.09	2.85	2.66	完形	
92	4	No.1下	23.66	23.61	18.97	19.17	1.22	3.37	3.18	完形	
93	4	No.1下	23.22	23.21	18.13	18.17	0.84	2.14	1.95	完形	
94	4	No.1下	23.82	23.96	18.78	19.08	1.08	3.15	2.96	完形	
95	4	No.1下	23.14	23.33	18.80	18.68	1.05	2.86	2.67	完形	
96	4	No.1下	23.19	23.26	19.04	18.99	1.07	2.88	2.69	完形	
97	4	No.1下	23.23	23.31	18.54	18.62	1.15	2.97	2.78	完形	
98	4	No.1下	23.15	23.19	19.05	19.27	1.05	2.76	2.57	完形	
99	4	No.1下	22.63	22.50	18.85	18.75	1.30	3.16	2.97	完形	
100	4	No.1下	23.01	23.12	19.02	19.11	1.12	2.83	2.64	完形	
101	4	No.1	23.06	22.58	18.86	18.82	1.31	2.19	2.00	完形	
102	4	No.1下	23.43	23.45	19.06	19.07	1.15	3.35	3.16	完形	
103	4	No.1下	22.79	22.72	18.94	19.04	1.02	2.56	2.37	完形	
104	4	No.1下	23.10	23.14	18.84	18.81	1.24	2.98	2.79	完形	
105	4	No.1下	24.58	24.64	20.05	20.37	1.25	3.09	2.90	完形	
106	4	No.1下	23.13	23.08	18.94	18.93	1.17	3.17	2.98	完形	
107	4	No.1下	23.06	23.26	18.88	18.88	1.01	2.61	2.42	完形	
108	4	No.1下	23.30	23.35	18.84	18.95	1.07	2.72	2.53	完形	
109	4	No.1下	23.20	23.20	19.29	18.98	1.23	3.11	2.92	完形	
110	4	No.1下	23.06	23.02	19.06	19.03	1.26	2.62	2.43	完形	
111	4	No.1	23.04	23.22	18.64	18.38	1.11	3.04	2.85	完形	
112	1	S-07	23.32	23.39	18.14	17.81	1.00	1.78	1.59	完形	
113	1		23.88	23.97	19.12	18.85	1.33	2.69	2.50	完形	
114	4	No.1	23.15	23.02	18.99	18.95	1.26	3.04	2.85	完形	
115	3		24.10	24.37	19.76	19.31	2.14	5.38	5.19	完形	
116	1		23.79残	23.99残	20.09	19.76	1.26	2.17	1.98	一部欠	
117	4	No.1下	25.47	25.62	20.15	19.92	1.37	2.90	2.71	一部欠	
118	4		24.43	24.56	20.05	19.79	1.53	2.91	2.72	一部欠	
119	3	SI-01	24.53	19.13残	18.89	－	1.24	2.67	2.48	3/4残	
120	4	No.1下	23.85	23.83	－	19.12	1.03	2.67	2.48	完形	文字不明
121	3		22.48残	22.46残	－	－	0.91	1.91	1.72	完形	文字不明
122	4	No.1	16.15残	9.31残	－	7.98残	0.94	0.48	0.29	1/4残	
123	3		9.55残	14.03残	6.93残	－	1.06	0.75	0.56	1/6残	「永」の部分
124	3		10.09残	9.78残	－	－	1.16	0.61	0.42	1/6残	文字不明
125	1	S-07	22.96残	13.84残	－	－	2.31	1.59	1.40	1/3残	文字不明
126	3		20.31残	14.13残	－	－	0.83	0.84	0.65	1/6残	文字不明
127	1		24.98	25.48	－	－	1.75	3.17	2.98	完形	文字不明
128	1	S-07	25.25	25.48	19.91	19.41	2.21	3.96	3.77	完形	文字不明
129	2		28.30残	18.69残	－	－	1.66	2.50	2.31	1/2残	
130	1		26.91残	15.85残	－	－	2.26	1.46	1.27	1/2残	文字不明
131	1		24.67残	13.14残	－	－	1.15	1.01	0.82	1/2残	文字不明
132	4		24.92残	14.82残	－	－	1.63	1.22	1.03	1/2残	
133	1		20.76残	12.43残	－	－	2.09	0.91	0.72	1/4残	文字不明
134	2		24.55残	12.65残	－	－	2.34	0.84	0.65	1/4残	文字不明

第４章　総括

今回の境の明神遺跡の発掘調査は、国道 294 号線の道路東側拡幅部分だけに限定された南北に細長い調査範囲であったが、住居跡１軒、柱穴３基、土坑３基を確認した。住居跡 SI-01 より南側の調査区では、遺構らしきものは確認する事ができなかった。

発掘調査で出土した遺物は収納箱５箱分に及び、主に近世・近代の遺物が検出し、総数は 497 点になった。その中で図示できた物は、陶磁器が 167 点、鉄製品が 179 点、土製品が４点、石製品が 12 点、古銭が 135 点である。陶磁器の中で時期の分かったものは、17 世紀代が約４％、18 ～ 19 世紀が約 75％、19 ～ 20 世紀の物が約 21％という比率になった。以上のことから、今回の調査で出土した陶磁器の中心時期は、18 ～ 19 世紀である事が考えられる。なお住居跡 SI-01 から出土した陶磁器は、18 世紀前半を契機に、19 世紀第４四半期にかかる遺物が見つかり、特に 18 世紀後葉の遺物が最も多く出土している。

特筆すべき遺物としては、第 12 図陶磁器実測図（6）に京焼と掲載した陶器碗の破片がある。時期は不明だが、灰釉地に金泥を使い、草花文を手描き上絵技法で作られた京焼の一部が出土した。京焼の出土から、当時この場所が奥州道中として整備され、参勤交代をはじめ交通・流通の幹線として多くの往来や交易があったことが想像できる。また、陶器では在地系窯で焼かれた物が多く見つかっているが、同じ在地窯ではなく胎土や釉の違いから複数の窯で生産された可能性があると指摘できる。しかし北関東地域の陶磁器流通網や在地窯が未整理のため不明な点が多く、今後は周辺地域の陶磁器流通網や在地窯と比較していくことが、課題といえる。

境の明神遺跡の集落の成立時期についても不明な点が多いが、絵図として確認できるものに『奥州道中』【増補行程記】がある。同資料は君命を受けた盛岡藩士が、江戸日本橋から盛岡までの道中筋を描いた道中絵図で、寛延４（1751）年に完成し献上されたものである。その絵図の一部に境之明神村や白坂峠の様子も描かれている。今回の調査で確認された住居跡 SI―01 は、絵図で推定される場所に小宿と表記がある。また出土した遺物の中で中心年代となる陶磁器類は、絵図が描かれた時期の前後に使用されていた可能性が高いと考えられる。その他にも、絵図上にある「境之明神村入口」の木戸南側からは建物等は描かれておらず、実際に木戸があったと考えられる調査位置から南側には、遺構等は確認できず絵図と同じ状況であることが分かった。

今回の調査では、住居や建物と関連する可能性のある遺構を検出するのみとなってしまったが、江戸時代から近代までの生活を垣間みることができた。境の明神遺跡は福島県側にも存在しており、また今回の調査区の東側に平場が続いているため、遺跡の全容を解明するに至らなかったが、今後の活用と解明の一助になれば幸いである。

参考文献

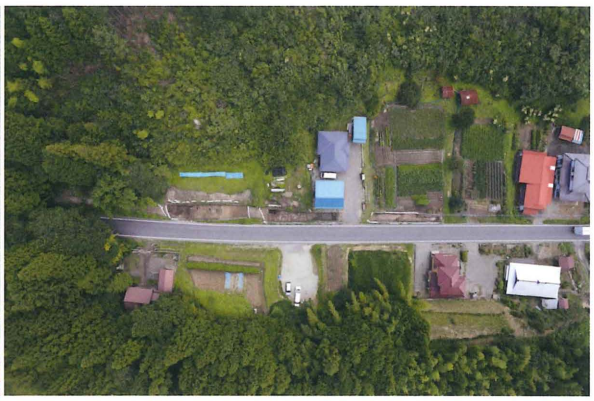
・新南部業書特装版　奥州道中【増補行程記】
・白河市教育委員会　2003　境の明神遺跡確認調査報告書
・栃木県教育委員会　2011　『栃木県歴史の道調査報告書２』　日光例幣使街道　奥州道中
・阿部昭　2010　『近世奥州道中における往還橋梁整備の進展』　国士舘史学　第 14 号

写　真　図　版

図版一　境の明神遺跡航空写真・境の明神・県境碑

境の明神遺跡航空写真（南西から）

境の明神遺跡航空写真（西から）



境の明神遺跡航空写真（真上から　上が北東）

「従是北白川領」の石柱（北から）

境の明神県境（南から）

図版二　境の明神遺跡　遺構写真（1）

SK-06 遺物出土状況（北から）

SK-06 遺物出土状況（南東から）

SK-07 遺物出土状況（北東から）

SK-08 礫出土状況（南から）

1 区 P-01、02 完掘状況（北東から）

1 区 P-01 完掘（礫出土）状況（北西から）

1 区 P-02 完掘（礫出土）状況（北西から）

4 区遺構完掘状況（北西から）

図版三　境の明神遺跡　遺構写真（2）　境の明神峠

SI-01 航空写真（南西から）

SI-01 完掘写真（南西から）

SI-01 完掘写真（北西から）

３区古銭出土状況（北から）

境の明神（玉津島明神）（南東から）

境の明神（住吉明神）（南東から）

境の明神の峠（南西から）

境の明神の峠（南から）

図版四　境の明神遺跡　遺物写真（1）

陶磁器

図版五　境の明神遺跡　遺物写真（2）

陶磁器

図版六　境の明神遺跡　遺物写真（3）

15-165

15-166

陶磁器

21-164

21-165

21-166

21-169

21-171

21-176

21-179

鉄製品

報　告　書　抄　録

ふりがな	さかいのみょうじんいせき
書名	境の明神遺跡
副書名	快適で安全な道づくり事業費（県単）一般国道294号明神工区に伴う発掘調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第399集
編著者名	長瀧豊和
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団　埋蔵文化財センター
所在地	〒３２９－０４１８　栃木県下野市紫４７４番地　TEL　０２８５－４４－８４４１
発行機関	栃木県教育委員会　公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦2020年３月27日　（令和２年３月２７日）

ふりがな 所収遺跡名 さかいみょうじん	ふりがな 所在地 なすまち	コード		北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
境の明神	那須町 寄居			37°　04′　06″	140°　11′　07″	20200617 ～ 20200930	564㎡	国道294号線拡幅工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
境の明神遺跡	村落跡	江戸～大正	住居跡　１軒 柱穴　３基 土坑　３基	陶磁器・古銭・鉄釘	江戸時代の奥州道中沿いの村落

要約	栃木県と福島県の県境に位置し、遺跡の目の前を旧奥州道中が通っている。近世の小宿に関連する住居跡・土坑や陶磁器類が出土した。出土遺物の年代は、17世紀から20世紀にかかるものが見つかっている。今回の調査範囲では、江戸期に描かれた絵図において、小宿と比定される建物や村入口とされる場所以南から建物等が無い状況が一致する可能性が高いことが分かった。

栃木県埋蔵文化財調査報告第399集

境の明神遺跡

—快適で安全な道づくり事業費（県単）
一般国道294号明神工区に伴う発掘調査—

発行　栃木県教育委員会
宇都宮市塙田1—1—20
TEL　028(623)3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団
宇都宮市本町1－8
TEL　028(643)1011

令和2年3月30日発行

編集　公益財団法人とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474番地
TEL　0285(44)8441

印刷　株式会社　井上総合印刷